

平成 31 年度 一般社団法人千葉県助産師会

通 常 総 会

[活動報告]

日時 平成 31 年 4 月 27 日 (土)

場所 千葉市文化センター

総会冊子 活動報告編 目次

平成 30 年度 活動報告

I. 報告事項	1
1. 運営会議および理事会報告	2
2. 事業計画の評価	4
3. 地区活動報告	7
4. 専門部会報告	25
1) 助産所部会	26
2) 保健指導部会	28
生と性の健康講座チーム	30
3) 勤務助産師部会	32
5. 委員会活動報告	34
1) 教育委員会	35
2) 子育て委員会	37
3) 安全対策委員会	39
4) 災害対策委員会	41
5) 広報委員会	43
6) 将来構想検討委員会	45
7) 細則検討委員会	47
6. 表彰および福祉事業報告	48
7. 行政および関連団体等への会議参加状況	49
8. 千葉県助産師会主な動向	50
9. 千葉県助産師会事業部報告	52
10. 千葉県助産師会事業への協力	52
11. メーリングリスト配信状況	53
12. 資料・主な統計	55
1) 研修会実績報告	56
2) 助産師の電話無料相談統計	57
3) 母乳育児支援に対する安全評価	59
4) 健康教育活動報告	60
5) 生と性の健康教育活動実績	61
6) 助産所分娩数（自宅分娩を含む）	62
7) 災害対策活動報告	62
8) 南北関東地区研修会開催報告	63
9) 創立 90 周年記念誌作成報告	64
10) 要望書	65

I. 報 告 事 項

1. 平成 30 年度 運営会議および理事会報告

開催日	会議	場所	審議事項
4月8日 (土)	第1回運営会議	千葉市民会館	第1回理事会運営について
4月15日 (日)	第1回理事会	千葉市民会館	<ol style="list-style-type: none"> 1. 千葉県助産師会総会の内容・方法の最終確認および各地区の役割 2. 第2回理事会の議題について 3. 平成31年度千葉県助産師会総会の日程 4. 千葉県への要望書提出について 5. 平成30年度事業計画について 6. 日本助産師会総会の審議事項について 7. 南北関東地区研修会について
4月28日 (土)	第2回理事会 (総会後)	千葉市文化センター	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年度事業計画内容の確認 2. 平成31年度千葉県助産師会総会日程 3. 平成31年度日本助産師会総会について 4. 千葉県への要望書提出について 5. 平成30年度理事会・運営会議日程の確認
5月20日 (日)	第2回運営会議	千葉県助産師会事務所	第3回理事会運営について
5月31日 (木)	第1回 電磁的理事会		後援依頼について
6月3日 (日)	第3回理事会 (南北関東地区 研修会実行委員会・理事会合同 会議)	千葉市民会館	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成31年度千葉県助産師会総会の評価 2. 平成31年度日本助産師会総会代議員の選出 3. 菜の花会日程について 4. 千葉県への要望書について 5. 定款改正内容について 6. 委託事業について 7. 南北関東地区研修会について
6月23日 (土)	第2回 電磁的理事会		後援依頼について
7月23日 (月)	第3回 電磁的理事会		後援依頼について
8月5日 (日)	第3回運営会議 (南北関東地区 研修会実行委員会・理事会合同 会議)	千葉市民会館	第4回理事会運営について

開催日	会議	場所	審議事項
8月19日 (日)	第4回理事会 (南北関東地区 研修会実行委員 会・理事会合同 会議)	千葉市民会館	1. 後援依頼について 2. 千葉県への要望書について 3. 各地区・部会・委員会の中間報告について 4. 平成30年度の表彰者について 5. 創立90周年記念誌について
10月28日 (日)	第4回運営会議	千葉市民会館	第5回理事会運営について
11月18日 (日)	第5回理事会	千葉市民会館	1. 千葉県助産師会総会冊子の作成について 2. 創立90周年記念誌の販売方法 3. HP助産所紹介の申込みについて 4. 後援依頼について 5. 平成31年度の委員選出について 6. 千葉県産後ケアアドバイザーについて 7. 妊娠SOS事業の委託について
12月6日 (木)	臨時運営会議	武田助産院	妊娠SOS事業への応募申請について
12月9日 (日)	第4回 電磁的理事会		妊娠SOS事業への応募申請について
平成31年 1月13日 (日)	第5回運営会議	千葉市民会館	第6回理事会運営について
1月20日 (日)	第6回理事会 (菜の花会)	千葉市民会館	1. 平成31年度の表彰者について 2. 千葉県助産師会総会の運営について 3. 千葉県助産師会役員を選出について 4. 各部会間の連携について 5. 「生と性の健康講座」特別委員会の発足 6. 理事会、運営会議日程及び会場の確認 7. 活動助成金(電話相談)の申請について
1月31日 (日)	第5回 電磁的理事会		後援依頼について
2月17日 (日)	第6回運営会議	千葉市民会館	第7回理事会運営について
3月10日 (日)	第7回運営会議	千葉市民会館	第7回理事会運営について
3月17日 (日)	第7回理事会	千葉市民会館	予定
4月7日 (日)	第1回運営会議	千葉市民会館	予定
4月14日 (日)	第1回理事会	千葉市民会館	予定
4月27日 (土)	第2回理事会 (総会后)	千葉市文化 センター	予定

2. 平成 30 年度 事業計画の評価

目標	実施計画および具体的内容	成果
1. 組織体制を強化し、連絡報告が円滑に行われる組織となる。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 定期的に総会・運営会議・理事会・地区活動・各委員会を開催し、組織的に取り組む。 2) 組織的に取り組むことにより会員の意見を汲み上げ、会員相互の連絡・報告が円滑に行われる組織を目指す。 3) 定款・細則を見直し、組織運営を更に効果的なものにする。 4) 組織図を見直し、会の運営をより明確にする。 5) 本部総会に代議員を派遣する。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 総会：平成 30 年 4 月 28 日（土）事業計画・予算・活動計画を審議した。運営会議：8 回、理事会：7 回事業の推進・調整・支援を行った。 (2) 入会時は、担当地区にも入会することを周知し、地区会費徴収の目的や方法を説明した。地区活動内容を案内して、地区活動への参加を促した。 (3) 定款・細則を見直し、事務所移転に伴い、定款を改訂した。 (4) 組織図を見直し、改訂を行った。 (5) 5 月 25 日の日本助産師会総会に代議員が出席し、県代表として意見を述べた。
2. 地域で活動する助産師に対し、安全対策への組織的な取り組みを行う。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 定期的な委員会の開催 2) 開業助産所の安全管理評価の実施 3) 事例検討会の開催 4) 日本助産師会分娩基本データ収集システムによる報告体制の確立と支援 5) 母乳育児支援に関する安全評価の周知及び自己評価の実施 6) 保健指導出張専門者向け安全管理指針の周知（ホームページへの掲載） 7) ヒヤリハット事例の情報収集及び分析を行い、実際にどう活かすか検討し、実践につなげる。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 安全委員会を 3 回開催した。 (2) 開業助産所 14 か所の安全管理評価を行い、改善策への取り組みを支援した。助産所部会会議に 2 回以上参加した。安全管理研修のポイントを全員 4 ポイント取得した。 (3) 助産所部会と安全対策委員会が連携しての事例検討会は開催しなかったが、日本助産師会の安全対策研修会には参加した。 (4) 分娩基本データ収集システムに基づいた報告を実施した。分娩基本データ収集システムの操作方法についての利用者同士の相談およびサポート体制を構築した。分娩基本データ収集システム利用によるデータを発信し、フィードバックした。 (5) 母乳育児支援に関する安全評価について会員へ周知し、自己評価を実施した。 (6) 保健指導出張専門者向け安全管理指針を HP に掲載して周知した。 (7) 母子健康手帳や訪問記録に関するヒヤリハット事例の報告があり、注意喚起した。ヒヤリハット研修会は開催しなかった。
3. 助産および母子保健事業を実施する。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 電話無料相談（ミッドワイフ千葉）の継続 2) 相談員の質向上に取り組む。 3) 「南北関東地区研修会」と「90 周年記念」を開催する。 4) 平成 31 年度の「国際助産師の日」を準備する。 5) 同じ地域で活動する施設と地域の助産師が情報交換し、母子保健活動を実施する。 6) 産後ケア事業に取り組み、その実現を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 産科施設や行政窓口の前年度出生数を基に相談案内カードなどを配布し、PR 活動を行った。 (2) 相談員の質向上のための事例検討会を 2 回開催し、意見交換や情報交換を行った。 (3) 平成 30 年 9 月 7～8 日に成田市にて南北関東地区研修会及び懇親会（90 周年記念）を開催した。 (4) 平成 30 年度は「国際助産師の日」は開催しなかったが、平成 31 年 6 月 2 日（日）に成田市にて開催予定で準備している。 (5) 地区活動等に勤務助産師も加わり、連携を取りながら母子保健活動を実施した。 (6) 産後ケア実施施設を見学し、産後ケアを実現するための情報収集を行った。行政と協力して産後ケア事業を実施し、産後ケアアドバイザー登録にも協力した。

目標	実施計画および具体的内容	成果
4. 助産師のキャリア・アップを支援する。	1)体系的に研修会を実施する。 2)助産師の実践能力強化のための研修会企画・運営を進める。 3)各種表彰を推進する。 4)クリニカルラダーⅢの更新可能な研修会を実施する。	(1)体系的に研修会を立案・実施した。アンケートによるとニーズには合っていたが、参加者数は例年と変わりなかった。 (2)委員会や部会主催で助産師の実践能力強化のための研修会を開催した。 (3)本会を通して表彰者の候補者を推薦した。表彰者の存在は、助産師仲間や後輩の励みになるため、毎年候補者を選出して表彰につなげる。 (4) CloCMiP®ラダーⅢ対応の指定研修を3回、必修研修を2回開催した。今後は、クリニカルラダーⅢの更新のための研修会を体系的に計画していく必要がある。
5. 健康教育の講師育成のための教育プログラムを活用する。	1)昨年度の意見を踏まえ、今後の講師育成のために編成し、活動する。	(1)講師育成フローチャートに従い、講師を育成するための情報を提供するとともに、講師育成のプログラムマニュアルを見直し、登録講師の交流会を開催した。 ・教育プログラムに沿って講師を育成し、講師は2名増えて49名となった。 ・生と性の健康講座チームは、次年度より特別委員会として活動することとなった。
6. 災害対策への取り組みを強化する。	1)災害時支援マニュアルを活用する。 2)災害発生時に対応できる組織を整備する。	(1)南北関東地区研修会等で災害時支援マニュアルの周知を図り、マニュアルの熟知を促した。 (2)各地区定例会を通して災害支援の地区協力員を募集し、登録を実施している。 (3)災害時連絡体制の整備を進め、会員の安否確認訓練および災害時初動シミュレーション訓練を実施した。 (4)5月に習志野市と災害支援協定を結び、3月に佐倉市と覚書を締結予定である。市原市、勝浦市、習志野市、佐倉市の防災訓練に参加した。 (5)災害対策に関連した研修会は実施できなかったが、日本助産師会の研修会に参加した。
7. 会員増加と会員同志の交流を図る。	1)助産師会の活動をアピールする。 2)研修会を利用して勤務助産師との交流を図り、会員の増加につなげる。 3)個々の会員が生き生きと活動している姿を見てもらう。 4)年1回、菜の花会を開催する。 5)御祝い・御見舞い・物故に該当する会員を明確にし、会員の動向を把握する。	(1)研修会で非会員に向けて助産師会の活動をアピールし、会員の増加を目指した。(目標375名のところ、2月15日現在365名) (2)勤務助産師である非会員の研修会参加により、入会の検討につながった。 (3)健康教育の協力員などを募り、地域の助産師の活動を知ってもらった。 (4)1月20日(日)に千葉市で菜の花会を開催した。18名が参加し、世代を超えた会員同志の交流の場となった。 (5)会員の動向を把握するように努めた。
8. 千葉県助産師会の事務所の管理・運営について具体策を決定し、安定化を図る。	1)事務所の管理・運営に関する必要事項を決める。 2)事務所の業務整備を行う。庶務との役割分担などの検討 3)事務員の雇用を継続する。	(1)事務所の管理方法と活用について具体策を決め、試行錯誤して実行している。 (2)事務所運営費の具体的な見通しについては検討中である。 (3)事務員が働きやすい環境を整備するよう努力したが、事務員の都合により3月末で退職予定である。今後は新たな事務員を雇用した上で、雇用の安定化を図る。

目標	実施計画および具体的内容	成果
<p>9. 南北関東地区研修会及び千葉県助産師会の90周年記念式典を成功に導く。</p>	<p>1) 南北関東地区研修会の実行委員会を中心に、企画・運営に関する項目を具体的かつ詳細に決定する。</p> <p>2) 研修テーマに沿った内容を目指し、千葉県の特徴をアピールできる研修会を行う。</p> <p>3) 千葉県90周年記念式典における企画及び運営の準備を具体的に進める。(90周年記念誌の作成を含む)</p> <p>日程：平成30年9月7日、8日 場所：成田東武ホテルエアポート テーマ：助産師がつむぐ こころとことばときずな</p>	<p>(1) 会員が協力して南北関東地区研修会および懇親会(90周年記念式典)の企画・運営をすることで、会員相互の理解につながった。研修会当日は延べ157名の会員が協力した。</p> <p>(2) 南北関東地区研修会は、延べ467名、懇親会は131名の参加を得て盛会裏に終了した。アンケートでの参加者からの評価も高かった。</p> <p>(3) 実行委員会を中心に南北関東地区研修会の開催に向けた会議を定期的に開催し、理事会との合同会議も4回開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場や宿泊施設、関連団体とも調整し、特にトラブルもなく開催することができた。 ・2日間のスケジュールを決定し、ほぼスケジュール通りに開催できた。 ・各地区の役割に応じて準備することができた。 ・予算の範囲内で研修会を開催できた。 ・9月に創立90周年記念誌を発行した。南北関東地区研修会でも販売し、好評だった。

3. 地区活動報告

千葉県助産師会地区割り

地区部会名	市町村名					
柏・野田・我孫子・流山・ 松戸地区部会	柏市	野田市	我孫子市	流山市	松戸市	
市川・浦安・地区部会	市川市	浦安市				
船橋地区部会	船橋市					
習志野・八千代・ 鎌ヶ谷地区部会	鎌ヶ谷市	習志野市	八千代市			
印旛地区部会	白井市	印西市	佐倉市	成田市	酒々井市	富里市
	栄町	八街市	四街道市			
香取・海匝・山武 地区部会	銚子市	旭市	匝瑳市	横芝光町	芝山町	東庄町
	東金市	山武市	多古町	神崎町	香取市	
	大網白里市		九十九里町			
千葉地区部会	千葉市					
長生・夷隅地区部会	茂原市	白子町	長生村	一宮町	長南町	睦沢町
	勝浦市	いすみ市	大多喜町	御宿町	長柄町	
市原・君津・安房 地区部会	市原市	木更津市	君津市	富津市	袖ヶ浦市	鴨川市
	館山市	南房総市	鋸南町			

平成 30 年度 第 1 地区 活動報告 №1

地区名 : 柏・野田・我孫子・流山・松戸地区 地区部会長:加藤 睦 会員数:71名

1. 定例会開催 平成 30 年度 12 回

2. 研修会

開催日	内容	講師
12月8日(土)	ボンディング障害について	山岸 由紀子氏

3. 行政への協力事業

内容	協力人数	内容	協力人数
千葉県不妊相談(松戸保健所)	1名	流山市こんにちは赤ちゃん事業	2名
柏市新生児訪問	7名	流山市ハローベビー	2名
柏市低出生体重児育児相談	2名	流山市赤ちゃんと一緒	2名
柏市にこにこダイヤル	1名	流山市新生児訪問	6名
野田市新生児訪問	2名	松戸市新生児・赤ちゃん訪問	3名
野田市健康づくりフェスティバル	8名	松戸市産後ケア事業 コーディネーター	2名
我孫子市しあわせママパパ学級	10名	松戸市産後ケア事業 ケア従事者	8名
流山市産後ケア事業	3名	松戸市親子 de 広場 相談業務	※4名
流山市育児相談	2名	まつど子育てフェスティバル	7名

※うち1名は、2地区より協力してもらっている

4. 健康教育・講演活動(生と性の健康教育)

対象	回数	講師(実数)
小学生	69回	4名
中学生	42回	3名
高校生	3回	3名
保護者・PTA	9回	3名
教員	2回	1名

5. 地区助産師活動

6. その他

定例会開催：12 回

目標	事業	活動内容	結果および評価
1. 会員同士の「結束を図り、お互いの知識や技術の向上を図る。	1)定例会の開催 2)地区交流研修会 3)先輩助産師との交流	(1)月 1 回定例会を開催。(会場は野田、流山、我孫子市で年 1 回、柏で 4 回、松戸で 5 回) (2) 今年度はボンディング障害について学ぶ。会員及び非会員も対象とし、勤務部会・助産所部会・保健指導部会交流も含む。 (3)食事会開催。先輩助産師の生の声を聴く。	<ul style="list-style-type: none"> ・予定通り開催した ・12/8 にボンディング障害についての研修会を行った。日程の決定、会場の確保が直前までできず、会員外までは周知できず、地区の会員だけで行った。 ・先輩助産師の高齢化により、開催できず。「産後ケアについて」をテーマに平日夜の交流会に変更して 2 月 25 日に開催した。
2. 地域に密着した母子保健活動を行う。	1)子育て支援 2)「我孫子市しあわせママパパ学級」 3)「松戸市産後ケア事業」 4)行政の母子保健事業に協力	(1)会員各自の活動の充実（母乳相談・育児相談等） (2)質の向上と安定した運営に努める。 (3)行政と協力して、活動しやすい体制を整える。また産後ケア事業に関わる他団体との情報共有ができる会を持つなどし、質の向上に努める。 (4)行政の母子保健事業 健康教育事業に協力 (5)講師を派遣する (6)地域主催母子保健会議への参加。	<ul style="list-style-type: none"> ・母乳育児支援リーフレットの配布を継続中。 ・数年、内容の見直しをしておらず、時代に合わない部分も出てきた。次年度は見直しをする。 ・1 月までに 19 例実施した。10 月定例会で事例検討会を開催した。昨年度、他団体との情報共有について松戸市に要望したが、実現しなかった。 ・各市の事業に協力し、助力している。詳細は別紙参照
3. 健康教育活動の充実	1) 思春期の性の健康講座を充実させる 2) 講師の育成	(1) 学校・地域・行政との協力体制のもと実施 (2)新しい講師を 2 人育てる、すでに講師をしている人のブラッシュアップ、講座内容の質的向上を図る、以上を目的に勉強会を行う。 ・研修会に参加をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・125 回（2018 年）実施。 ・新しい講師は輩出できなかったが、小学校の経験しかなかった講師が中学の講座にデビューした。講師のブラッシュアップ、講座内容の質の向上のための勉強会は行えなかった。 千葉県助産師会の「生と性の健康教育」の研修会および、交流会に参加した。
4. 災害に備える	1)災害時、速やかに行動できるよう準備する	(1)松戸市は、協定に基づいて行動できるよう、協力員の確保・地区部会内の整備を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策委員会のシミュレーション訓練に参加し災害発生時の初動のイメージを共有できた。松戸市との協定締結後の話し合いを来年度は実施できるよう調整する。
5. 千葉県助産師会事業への参加・協力	1)「助産師の電話無料相談」に協力 2)南北研修会への参加 3)研修会への参加	(1) 子育て委員会として電話相談事業の運営を担う。 (2) 南北研修の渉外を担当し、また協力員として参加する (3)お互いのスキルアップのため積極的に研修会に参加する。 (4)定例会で伝え合う時間を持ち、情報交換に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て委員会 4 名を中心に電話相談事業を担当した（委員会報告参照） ・地区会員で協力し、渉外担当としての役割を全うした。協力員として 14 名が参加した。 ・それぞれが参加した研修について、定例会で報告し、お互いの学びとなった。

平成 30 年度 第 2 地区 活動報告 No 1

地区名：市川・浦安地区

地区部会長：増田文子

会員数：40名

1. 定例会開催 年6回

2. 研修会

開催日	内容	講師
6月14日	婦人保健施設 「慈愛寮」見学	
10月6日	「抱っこが変わると子育てが変わる」	日本ベビーウェアリング協会代表理事 加藤淳子氏

3. 行政への協力事業

内容	協力人数	内容	協力人数
堀江子育て広場（浦安市社協）	6名	赤ちゃんふれあい体験（浦安市）	6名
赤ちゃんサロン（浦安市）	5名	浦安市養育支援訪問（浦安市）	3名
ほのぼのタイム（浦安・公民館）	5名	おやこ de はぐのび（公民館）	2名
こんぺいとう（浦安市）	5名	助産師相談（浦安市）	7名
特別支援性教育講師（浦安市）	1名	災害ボラティアセンター図上訓練（反省会）	1名
浦安市社会福祉協議会評議員	1名	市川市健康福祉センター母子保健推進協議会 委員	1名

4. 健康教育・講演活動（生と性の健康教育）

対象	回数	講師（実数）
小学生	25回	4名
中学生	15回	2名
高校生	3回	3名
特別支援学校	8回	1名
保護者・教員・専門学生・専門家	19回	2名
その他（市事業・公民館・幼稚園等）	17回	5名

5. 地区助産師活動

- ・9月29日 「浦安市子育てメッセ」に8名参加 167名の親子が助産師ブースへ
- ・11月18日 市川ファミリーフェスタに2名参加 10組の親子が助産師ブースへ

6. その他

定例会開催：6 回

目標	事業	活動内容	結果および評価
1. 会員 同士の結束を図り、知識技術の向上を目指す。	1) 定例会開催 2) 研修会開催 3) 地区会員の地区会への参加への働きかけ 4) 会員の増員	(1)2 か月毎の定例会の開催。 定例会は審議事項の検討と講習会等の参加者による伝達講習を行う。 (2)研修会や症例検討を行う。 (3)地区会員の把握、地区会への参加を呼びかけ、地区会費を徴収する。 (4)会員の増員を図る。 潜在助産師を発掘する。	・ 2 か月毎の定例会の開催。 ・ 定例会は審議事項の検討と伝達講習。 ・ 研修会や症例検討は地区会の時に報告。 ・ 2 地区会員の把握、地区会への参加呼びかけ、地区会費の徴収は 2 回にわたり行った。 ・ 会員の増員、潜在助産師の発掘を行った。
2. 地域・所属を超えたネットワークの構築	1) 社会福祉協議会との連携 2) 他職種との交流・連携を深める	(1)社会福祉協議会の評議員として、助産師会から 1 名参加する。 (2)子育て支援関連・防災関連・ママサークル等との交流を深める機会を作る。	・ 社会福祉協議会の評議員として助産師会から 1 名参加している。 ・ ファミサポ研修会講師依頼（次年度～） ・ 婦人保護施設の見学。 ・ 公民館子育て事業・特別支援に関する性教育の講師として参加。
3. 地域に密着した母子保健活動を積極的に行う。	1) 地域の子育て支援事業への協力 2) 行政の母子保健事業に協力する 3) 健康教育・講演会への講師派遣	(1)赤ちゃんふれあい体験、ファミリーフェスタ等の事業に参加する。 子育て支援に参加し、子育ての悩みや相談に乗り、自立した子育てができるよう支援する。 (2)特定妊婦や養育支援の必要な母子支援、助産師相談を実施、他職種との情報交換を積極的に行う。 (3)健康教育の質の向上と活動の充実を図る。 講師ができる人材を育成する。 常に新しい情報の取得と積極的に研修会に参加し、ブラッシュアップする。	・ 赤ちゃんふれあい体験、市川ファミリーフェスタ・浦安子育てメッセ等の事業参加。 ・ 子育ての悩みや相談に乗り、自立した子育てができるよう支援した。 ・ ベビーウェアリング協会理事を講師に親子を対象に抱っこひも講習会開催 ・ 浦安市養育支援訪問に関する事業提携継続 ・ 助産師相談（浦安市）開始 7 名助産師参加 ・ 市川市と両親学級委託事業について検討 ・ 研修会や情報交換に個人で参加した。 ・ 健康教育の質の向上と活動の充実をした。 ・ 講師ができる人材育成を行った（現在 5 名。） ・ 常に新しい情報の取得と積極的に研修会に参加。
4. 本部・千葉県・助産師会事業への参加協力	1) 無料電話相談協力 2) 研修会の参加協力 3) 南北研修会の参加協力	(1)相談員として協力。県民へ PR。 (2)部会を超えた研修会への参加。 (3)南北研修会に参加協力。	・ 相談員として協力し、県民へ PR をした。 ・ 部会を超えた研修会へ参加した。 ・ 南北研修会に協力参加した。
5. 災害に備える	1) 浦安市との災害協定継続 2) 災害時迅速な対応ができる準備 3) 他職種との防災連携	(1)浦安市防災訓練への参加。 (2)連絡網の見直しと会員全員の安否確認を目指す。 女性目線の防災連携を検討する。 (3)社会福祉協議会との連携をはかる。	・ 浦安市防災訓練へ来賓として 1 名見学。 ・ 連絡網を見直し、会員全員の安否確認をした。 ・ 社会福祉協議会との連携、図上訓練反省会参加（1 名）

平成 30 年度 第 3 地区 活動報告 № 1

地区名：船橋地区

地区部会長：田村陽子

会員数：43 名

1. 定例会開催 年 6 回

2. 研修会

開催日	内容	講師
8 月 26 日	「勇気づけ接遇研修」	元 ANA CA 長谷希歩氏

* 定例会開催時は会員のヒヤリハット事例について情報交換を行った。

3. 行政への協力事業

内容	協力人数	内容	協力人数
1.6 歳児・3 歳児健診	9 名	4 ヶ月児健康相談(鎌ヶ谷市)	1 名
4 ヶ月児健康相談	12 名	地区健康相談(鎌ヶ谷市)	2 名
ママ教室・パパママ教室	12 名	3 歳児健診(鎌ヶ谷市)	2 名
妊産婦・新生児訪問	13 名	妊産婦・新生児訪問(鎌ヶ谷市)	3 名
養育支援家庭訪問事業	5 名	ウェルカムベビースクール(鎌ヶ谷市)	2 名
子育てサークル支援	5 名		
赤ちゃん講座(次世代育成事業)	4 名		

4. 健康教育・講演活動（生と性の健康教育）

対象	回数	講師（実数）
小学生	1 回	1 名
中学生	11 回	2 名

5. 地区助産師活動

10 月 14 日 『子育て応援メッセ in ふなばし』ワークショップ参加

「10 代の子どもの命の学習&赤ちゃんとのふれあい交流」& 「ベビーマッサージ」

11 月 4 日 船橋健康まつり 災害に関する展示、グッズ製作でブース参加

6. その他

定例会開催予定：6回

目標	事業	活動内容	結果および評価
1. 会員同士の結束を図り、お互いの知識や技術の向上を図る。	1)定例会の開催 2)研修会の開催 3)地区会員増加への取り組み	(1)2ヶ月に1回の定例会を開催。 (2)定例会での情報交換と研修会参加者による研修内容を伝達する。 (3)必要に応じて研修会や事例検討会を行う。 (4)地区活動に参加していない会員と連絡を取れる関係作りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 定例会は6回開催した。 外部講師をまねいての研修会(接遇研修)を一回実施した。 新生児訪問に関連するヒヤリハット事例に対して RCA 分析を一回実施し、結果を地域保健課に報告した。 助産師会地区便りを継続。
2. 地域に根ざした母子保健活動を行う。	1)行政の母子保健事業に協力 2)健康教育・講演会に講師を派遣し、地域の子育て支援に協力	(1)妊産婦・新生児訪問(赤ちゃん訪問)事業に協力する。 (2)4ヶ月児健康相談、1歳6ヶ月児健診、3歳児健診、ママになるための教室、パパママ教室に協力。 (3)養育支援訪問事業に協力する。 (4)エイズ教育、命の授業、赤ちゃん講座、ベビーマッサージ、マタニティーヨーガ、その他依頼に対して講師を派遣する。 (5)公民館等での子育て支援事業に協力。	<ul style="list-style-type: none"> 船橋市の事業への協力を、例年通り円滑に行った。 中学校での、命の授業、赤ちゃん講座の依頼を受け実施した。 公民館・児童ホーム等からベビーマッサージや断乳・卒乳講座の依頼を受け実施した。 子育て応援メッセに参加しワークショップを担当した。 船橋健康まつりで災害関連ブースに出展した。
3. 災害に備える	1) 災害時に会員の安否確認が迅速に出来る体制作り 2) 災害時の協定に基づき、非常時に対応できるように地区内の体制の整備	(1)災害対策本部が行う訓練に参加する。 (2)地区会員同士が日頃から連絡をとり合い、災害に備える。 (3)災害支援協力員の登録者を確保する。 (4)災害支援マニュアルを活用した学習会を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 地区災害対策委員は普段から地区会員への連絡にメールを使用し迅速に連絡出来る様に準備している。地区に入会していない会員へ引き続き入会を呼びかけていきたい。 災害対策協力員の登録者は10名と増員した。 災害支援マニュアルを読み合わせた。
4. 千葉県助産師会が主催する事業への参加・協力を行う。	1)「助産師の電話無料相談」に協力 2)研修への参加 3)南北関東地区研修会に協力 4)千葉県助産師会90周年記念事業に協力	(1)電話相談協力員として協力する。 (2)電話無料相談をPRする。 (3)定例会等で研修会の参加を呼びかける。 (4)南北地区研修会に協力員を派遣する。 (5)90周年記念行事・記念誌作成に協力する。	<ul style="list-style-type: none"> 電話相談員として3名が相談事業に協力している。 新生児訪問で全家庭にフライヤーを配布した。 南北地区研修会に19名が協力した。

平成 30 年度 第 4 地区 活動報告 № 1

地区名：習志野・八千代・鎌ヶ谷地区 地区部会長：大谷理恵 会員数：28 名

1. 定例会開催 年 12 回

2. 研修会

開催日	内容	講師
11 月 6 日	表現力アップ 伝達講習	鶴岡利江子氏
2 月 12 日	生命のめぐりの中で生かされている「体」を紐解く	竹谷真理子氏

3. 行政への協力事業

内容	協力人数	内容	協力人数
八千代市プレママクラス	3 名	習志野市乳幼児育児講座	4 名
習志野市 PTA 家庭教育学級	5 名	八千代市思春期保健事業	4 名
八千代市産後ケア	8 名	八千代市新生児訪問	1 名

4. 健康教育・講演活動（生と性の健康教育）

対象	回数	講師（実数）
幼稚園（保育園）	2 回	2 名
小学生	26 回	4 名
中学生	15 回	1 名
高校生	3 回	1 名
保護者・PTA	16 回	3 名
保育士・助産師	1 回	1 名
妊産婦	34 回	8 名
その他	5 回	4 名

5. 地区助産師活動

八千代市思春期シンポジウム ブース出展及び参加

6. その他

平成 30 年度 第 4 地区 活動報告 №2

定例会開催：12 回

目標	事業	活動内容	結果および評価
1. 会員同士の交流を図り、お互いの知識や技術の向上に努める	1)定例会の開催 2)地区研修会の開催 3)地区会員の増員に取り組む	(1)月 1 回開催（習志野健康福祉センター） (2)定例会でテーマを検討。地区会員内・外から講師を選出して研修会を行う (3)研修会参加者による講習会実施予定。 (4)新会員を勧誘する (5)研修会に地域の非会員も誘い、交流の機会を設ける (6)施設勤務助産師との交流会、意見交換会を設ける (7)東京女子医科大学八千代医療センター母体胎児科との交流会を年 2 回行う	・定例会は総会を含む 12 回開催 ・講演会の伝達講習会を行う ・地区研修会の開催 ・新入会会員や地区活動に興味がある会員への声かけを行う 1 名参加があった ・東京女子医科大学八千代医療センター母体胎児科職員との交流会を 6 月 11 月開催
2. 地域に密着した母子保健活動・健康支援活動を行う	1) 子育て支援 2) 八千代市プレママ教室開催 3) 行政の事業に協力	(1)会員各自の業務を充実させる (2)内容を検討し・質の向上を図る (3)行政の母子保健事業・健康教育事業に協力する (4)講師の派遣を行う (5)地域の母子保健会議・医療会議へ参加する	・各自が取り組んでいる ・プレママは 10 回開催、講師間での検討会随時実施 ・公民館・幼稚園・小中学校から依頼の健康講座を実施 ・八千代市思春期保健ネットワーク会議・八千代市街づくりプラン推進評価委員会に参加 ・八千代市産後ケアのアウトリーチ型に協力
3. 健康教育活動の充実を図る	1)「生と性の健康講座」開催	(1)地区の講座見学・研修会で研鑽 講師の質の向上を図る (2)講座内容の検討・質の向上を図る (3)講師の育成・人材を確保する (4)教材及び資料を整備する	・個人毎に研修会等で研鑽 ・講座後、担当者で反省会を行い、定例会で講座内容の検討会を行った ・講師希望者は、講座のサポーターとして参加しながら研鑽中 ・講座数が増え、教材の汚染や破損が増加。修繕・整備随時実施
4. 災害に備え、体制を整える	1)災害時速やかに行動するための準備 2)災害時、行政と連携し支援活動協力ができる体制づくり	(1)連絡方法の整備 (2)習志野市との災害協定締結。今後の連携について話し合い (3)災害時、協定に基づき行動できるよう、協力員の確保等、地区部会内の整備	・連絡方法の見直しを行った。 ・震度 5 クラスの地震のときなどを想定し会員の安否確認を行った。 ・協力員として 10 名登録している。 ・習志野市との防災協定につき、話し合い、会議に参加した
5. 千葉県助産師会の事業に参加する	1)助産師の電話無料相談運営に協力 2)南北研修会運営に協力	(1)相談員として協力し、県民への PR も行う (2)南北研修会開催に際し協力する	・相談員として 7 名協力。講座開催時、電話無料相談事業の紹介やフライヤーの配布を行った ・9 月 7, 8 日協力員として 8 名協力した

平成 30 年度 第 5 地区 活動報告 № 1

地区名：印旛地区

地区部会長：佐々木明代

会員数：53名

1. 定例会開催 年 4 回

2. 研修会

開催日	内容	講師
9月7・8日	南北関東地区研修会	
12月14日	助産師が行う骨盤ケア 基礎復習・応用編	助産師整体師 米丸充咲氏

3. 行政への協力事業

内容	協力人数	内容	協力人数
成田市健康福祉まつり	11名	四街道市産後ケア事業	3名
佐倉市産後ケア事業	4名	成田市こんにちは赤ちゃん事業	7名
富里市新生児訪問事業	2名	酒々井町マタニティ教室	2名
印西市マタニティ教室	1名	八街市マタニティ教室・訪問事業	1名
成田市マタニティ教室	3名		

4. 健康教育・講演活動（生と性の健康教育）

対象	回数	講師（実数）
小学校	15回	3名
中学校	15回	14名
高校	2回	2名
P T A ・保護者	2回	1名
妊産婦	100回	1名

5. 地区助産師活動

- ・マタニティヨガ講座 100回
- ・ベビーマッサージ講座 3回
- ・母親教室 24回

6. その他

平成 30 年度 第 5 地区 活動報告 № 2

定例会開催予定：8回/年 総会 1回/年

目標	事業	活動内容	結果および評価
1. 会員の交流を図り知識・技術の向上に努める	1) 定例会の開催 2) 地区研修の充実 3) 会員の増加 4) 日本助産師会会員として会に協力 5) 千葉県助産師会会員として協力	(1) 定例会の開催、地区研修の開催研修は会員のニーズにそって企画・開催する。 (2) 助産師の地区会員を積極的に呼びかけ地域の潜在助産師への入会を促す。	・定例会 4 回、臨時集会 4 回、計 8 回実施。 ・南北関東地区研修会を地区研修会とし 33 名が参加した。 ・「骨盤ケア」研修会に 24 名の参加があった。 ・入会 2 名
2. 地域に密着した保健活動を行う	1) 保健センター及び、関係機関の事業へ協力 2) 地域の健康福祉事業への協力 3) こんにちは赤ちゃん事業・新生児訪問の受諾	(1) 産後訪問事業の施行に協力し地域の母子の健康をサポートする。 (2) 市の母親学級への講師派遣、新生児訪問、こんにちは赤ちゃん事業、成田市健康福祉祭りなど、行政の事業に積極的に協力する。	・佐倉市産後ケア事業に 4 名が協力し実績を上げている。 ・四街道産後ケア事業に 3 名が協力し実績を上げている。 ・母親教室、家庭訪問等の市町村事業については引き続き協力し実施中。
3. 思春期講話の充実を図る	1) 講師のスキルアップ 2) 認定者の育成 3) 講演会の講師派遣	(1) 研修会で教育現場に携わっている保健師との交流会の場を設け、よりニーズに即した講義内容となるよう内容を検討する。 (2) ニーズに柔軟に対応出来る新たな講師育成を行う。	・市町村の保健師等も交流の場を設け情報交換を積極的に実施中である。 ・講師育成を目的として希望する会員へは積極的に講座見学を勧めている。
4. 千葉県助産師会事業への参加・協力を行う	1) 電話相談協力員としての協力 2) 研修会・イベントへの参加 3) 南北研修会への事業協力 4) 平成 31 年度「国際助産師の日」を開催	(1) 電話相談協力員として協力する。 (2) イベントについて、活動内容、開催場所などの情報の周知と参加を呼びかけ、自己研鑽を促す。 (3) 平成 30 年度の南北関東地区研修会に向けて準備作業に協力する。 (4) 平成 31 年度「国際助産師の日」の企画・検討をしていく。	・今年は電話相談協力員 4 名あり。研修会イベントについては積極的に案内を実施、自己研鑽を促した。 南北関東地区研修会は印旛地区で開催でもあり 33 名の協力があり高評価であった。国助に関しても企画、検討が順調に進められている。
5. 地区部会の運営の円滑化	1) 地区会員へのスムーズな連絡 2) 地区部会運営の参加 3) 役員の役割調整	(1) 印旛地区部会の会員が円滑に動けるよう、各役員の動きを調整する。 (2) 災害発生時、作成した連絡網を使用し地域会員の安否確認がスムーズにできるように会員の意識付けを徹底する。 (3) 地区活動の情報共有をスムーズに行い地区部会の活動に会員が積極的に参加できるようにする。	・情報の共有化に努めるべく連絡網を最大限に活用している。
6. 地域の災害対策への協力体制を整える	1) 災害時の対策に基づき、非常時に対応出来るよう地区部会の体制を整える	(1) 佐倉市の災害救護活動について、活動に当たる助産師の保障について佐倉市との調整を行う。 (2) 災害時発生時にスムーズに活動できるように市に協力し必要な準備を行う。 (3) 成田市の災害救護活動について印旛地区助産師会として協力体制を検討していく。	・10/21 佐倉市民防災訓練へ 5 名参加。手作り防災グッズの紹介や助産師活動の PR ができた。 ・8/26「九都県市合同防災訓練」には 1 名参加。

平成 30 年度 第 6 地区 活動報告 No. 1

地区名：香取・海匝・山武地区

地区部会長：石毛光代

会員数：29 名

1. 定例会開催 年 4 回

2. 研修会

開催日	内容	講師
8 月 4 日	・乳房管理について「乳腺炎の支援ガイドライン」 「乳腺線維腫」 ・性教育…最新の情報提供の重要性について	齋藤葉子氏
9 月 7・8 日	南北関東地区研修会	
2 月 15 日	女性として、看護として、知っておきたい遺伝の話	遺伝カウンセラー 宇津野恵美氏

3. 行政への協力事業

内容	協力人数	内容	協力人数
新生児訪問	10 名	九都県市合同防災訓練	2 名
母親・両親学級	10 名		

4. 健康教育・講演活動（生と性の健康教育）

対象	回数	講師（実数）
小学生	20 回	4 名
中学生	10 回	4 名
高校生	1 回	1 名
PTA・保護者	8 回	4 名

5. 地区助産師活動

6. その他

定例会開催予定：4 回

目標	事業	活動内容	結果および評価
1. 会員同士の交流を図り、知識や技術の向上を図る。	1) 定例会の開催 2) 地区研修会の開催 3) 地区会員の増員への取り組み 4) 地区会員への地区会参加の働きかけ 5) 健康教育の講師育成	(1) 定例会は年 4 回、公民館・大学・助産院で開催する。 (2) 研修会は定例会に合わせて開催する。テーマは会員のニーズを基に定例会で決定する。 (3) 地区内で開催される研修会へ参加する。 (4) 各回を活用して、参加者間で母子支援活動状況などの情報交換を行う。 (5) 会員全員へ各回予告と実施内容はメール等で知らせる。 (6) 非会員へ研修会のお知らせをする。 (7) 健康教育講演や研修会に参加し、情報交換や講演内容の意見交換会を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・当地区は広域のため、会員の交通の便を考え、匝瑳市公民館、城西国際大学、ひまわり助産院で開催した。 ・参加者は、地区会員の 3~4 割であったが、情報交換をおこなえた。 ・今年度新規会員が 1 名増え、定例会や大学祭で力を発揮。 ・今後、勤務部会員が参加しやすい運営を考える。メールによる連絡などは今後も継続する。
2. 地域に密着した母子保健活動を行い地域との連携に努める。	1) 行政の母子保健事業への協力 2) 城西国際大学祭に助産師会として参加 3) 健康教育・講演会への講師を派遣	(1) 妊産婦・新生児家庭訪問（赤ちゃん訪問）、両親学級・育児支援などの事業に協力する。 (2) 城西国際大学看護学科教員と情報交換を行い、企画し実施する。 (3) 講演依頼に対し、講師の派遣がスムーズに行えるよう連絡を取り合う	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の母子保健事業に協力できた。 ・山武市要保護児童対策地域協議会代表者会議と山武保健所母子推進協議会に出席 ・11/3 大学祭に展示と体験コーナーで参加。妊産婦や高校生、大学生など多数来場。今後も継続する予定。 ・講師依頼に対し実施した。
3. 県助産師会事業への参加・協力を行う。	1) 電話相談事業に参加 2) 南北関東地区研修会に参加・協力 3) 研修会に参加	(1) 電話相談員として協力	<ul style="list-style-type: none"> ・6 名が相談員として協力した。 ・南北関東地区研修会に会場係 5 名、参加者 2 名。 ・スタジオアリス担当者を増やした。
4. 地域の災害対策に協力する。	1) 災害時に備え、行動できるよう訓練に参加	(1) 災害時マニュアルを熟読し、災害時に備える。 (2) 9 都県市合同防災訓練に助産師として参加し、助産師としての役割を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会で、マニュアルについて意見交換し疑問点などの解消に努めた。また、安否確認訓練実施後に意見交換を行った。 ・九都県市合同防災訓練に 2 名参加。

平成 30 年度 第 7 地区 活動報告 No. 1

地区名：千葉地区

地区部会長：高梨真由美

会員数：47名

1. 定例会開催 年 12 回

2. 研修会

開催日	内容	講師
7月10日	産科医療補償制度を知る・活かす	川島広江氏
11月14日	セクシュアル・マイノリティの理解を深める	原ミナ汰氏
2月12日	アロマザリングに学ぶ子育て支援	根ヶ山光一氏
定例会	「エビデンスに基づくガイドライン～妊娠期・分娩期 2016～（日本助産学会）」分娩期抄読会	
定例会	女性の健康相談・不妊相談事例報告	

3. 行政への協力事業

内容	協力人数	内容	協力人数
土日両親学級 15 回	12 名	思春期保健事業	6 名
母親&父親学級 43 回	10 名	新生児訪問指導員	11 名
母乳教室 28 回	8 名	健康づくり大会	8 名
女性の健康相談 36 回	6 名	男女共同参画センターまつり	5 名
不妊専門相談 12 回	1 名	産後ケア事業（委託助産院）	16 名

4. 健康教育・講演活動（生と性の健康教育）

対象	回数	講師（実数）
小学生	20 回	4 名
中学生	39 回	5 名
高校生	5 回	1 名
特別支援学校中学生	1 回	1 名
大学・専門学生	16 回	1 名
保護者・社会人 他	19 回	1 名

5. 地区助産師活動

- ・いのちの講座「生と性の講座・2次性徴の講座ⅠⅡ」公開講座5回、出張講座4校5回実施
- ・産婦人科クリニック2施設産褥訪問 10名協力
- ・リーフレット作成・活用
- ・母子保健事業テキスト作成・活用（母親&父親学級、土日両親学級、母乳教室）

6. その他

定例会開催予定：12 回

目標	事業	活動内容	結果および評価
1. 市民に母子保健知識の普及・生命の大切さの普及・女性の健康支援を行う。	1) 土日の両親学級開催 (千葉市委託事業) 2) 小学生親子対象いのちの講座実施 3) 千葉市母子保健事業協力 4) 施設の産褥訪問協力 5) 千葉市のイベント参加 6) 県助産師会事業協力	(1) 15 回開催。夫婦 30 組/回。チラシ・ホームページ・テキストを作成する。メールフォームでの申込期限を 10 日前から 3 日前に変更し受講者の利便性を高める。 (2) 公開講座 5 回開催。依頼にて出張講座を行う。 (3) 各事業へ助産師を推薦する。母親&父親学級、母乳教室講師、女性の健康相談不妊専門相談、千葉市内中学校思春期事業。産後ケア事業を推進する。 (4) 市内 2 施設と連携し、産後早期訪問にて母子健康支援を実施する。 (5) 市民健康づくり大会参加、男女共同参画センターまつりに参加する。 (6) 無料電話相談スタジオアリス・マタニティセミナー等	<ul style="list-style-type: none"> 市内各区母子健康包括支援センターにてチラシを全妊婦に配布している。計画通り実施できている。3～5 名/回で担当した。 生と性の講座(6,2 月)、2 次性徴の講座(4,7,3 月)を開催した。 行政と連携した健康支援ができている。健やか未来都市ちばプラン中間評価見直し報告書に基づき、母子保健向上のためのワーキンググループ立ち上げを提案し、健康支援課と千葉市助産師会で開始となった。 施設と連携し継続した母子支援ができている。開業助産師 10 名で担当している。 10/14 健康づくり大会を 8 名で担当した。 11/17 男女共同参画センターまつりを 5 名で担当した。 南北地区研修会協力員として 15 名が担当した。
2. 助産師の知識・技術を高める。	1) 研修会の開催	(1) 千葉市母子保健研修事業業務委託での研修を 3 回実施する。定例会内で事例検討や研修を実施する。定例会参加者が増加するよう、会員へ働き掛ける。	<ul style="list-style-type: none"> 計画通り 3 回の研修会を実施した。毎月の定例会にて「エビデンスに基づくガイドライン～妊娠期・分娩期 2016～(日本助産学会)」の抄読会を実施した。 定例会は 12～15 名/回参加した。
3. 組織を強化し、運営を円滑に行う。	1) 運営に関する会議 2) 他部門との連携 3) 助産師活動の広報の充実 4) 会員増を目指す 5) 災害対策	(1) 年 1 回総会、毎月定例会、適宜役員会開催。定例会議事録を全会員に配信・発送する。 (2) 行政関連の委員を受諾し会議に出席する。 (3) 会リーフレット作成配布やホームページを活用し、市民に情報提供をする。 (4) 非会員助産師に入会案内をする。 (5) 千葉市との協力体制を整える。	<ul style="list-style-type: none"> 6/4 総会を実施した。計画通りに実施した。 5 つの会議を 2 名で受諾し会議に出席した。 リーフレットは 9 月から母子健康包括支援センターにて全妊婦に配布となった。 研修参加等の非会員に、会の情報を伝え入会案内をしている。 10/23 千葉市より地域防災計画の説明を受け、災害時支援の意見交換をした。

平成 30 年度 第 9 地区 活動報告 No. 1

地区名：市原・君津・安房地区

地区部会長：吉原 幸子

会員数：31 名

1. 定例会開催 H30 年 6 回

2. 研修会

開催日	内容	講師
7 月 4 日	南北関東地区研修会準備	安達氏
9 月 5 日	南北関東地区研修会準備	安達氏

3. 行政への協力事業

内容	協力人数	内容	協力人数
新生児訪問	5 名	母親・パパ・ママ教室	3 名
乳児検診	1 名	予防接種	0 名
子育て支援	3 名	ベビーマッサージ	1 名
福祉フェア協力	0 名		

4. 健康教育・講演活動（生と性の健康教育）

対象	回数	講師（実数）
小学校	5 回	5 名
中学校	20 回	8 名
高 校	7 回	7 名
大 学	1 回	1 名
PTA・保護者	1 回	1 名
社会人	1 回	1 名

5. 地区助産師活動

*今年度は南北関東研修会のため木更津・市原健康祭り中止。

6. その他

定例会開催：6回

目標	事業	活動内容	結果および評価
1. 会員同士の交流を図り、お互いの知識や技術の向上に努める	1) 定例会、研修会を開催する。 2) 会員増加を図る。 3) 各会員の活動状況を紹介し理解する。	(1) 活動報告を参照。 (2) 定期的に研修会を企画し、知識、技術向上に努める。 (3) 本部、県の研修への参加を促し、伝達講習を行う。 (4) 潜在助産師への勧誘を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の通り、3月まで開催 ・南北関東地区研修会準備を行い、研修会なし。 ・県主催の性の健康教育講師育成・母乳支援・産後ケア・電話相談・知識・技術の向上を図った ・新会員3名入会。
2. 地域に密着した母子保健活動・健康支援活動を行う。	1) 各地区の母子保健事業に協力する。 2) 君津地域産後ケア事業連絡協議会と連携・協力する。 3) 健康教育活動に協力する。 4) 各地域の市民祭りに参加協力する。 5) 各地域の母子保健推進や周産期の委員を務める。	(1) 活動報告を参照。 (2) 産後ケア事業推進のため、助産所で行う、訪問型・宿泊型・ディサービス・乳房ケア等の協力を行う。 (3) 地域の健康教育を担当し、講師派遣を行う。 (4) 地域の市民祭りに参加し、助産師職をアピールして理解を求める。 (5) 母子保健推進委員・周産期連絡協議会・健康まちづくりプラン等の会議への参加。	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域の母子保健担当との情報交換、協力体制を作り、地域の妊産婦が育児環境を整える。 ・君津地域産後ケア事業連絡協議会で、関係機関と意見交換し、互いに協力体制で臨めた。 ・健康教育講師派遣では、県の様式で関係機関から文書で講師派遣の分担と把握ができた。 ・南北関東研修会協力・参加のため、市原・木更津健康祭り中止。
3. 支援事業への参加。	1) 会員の協力を得て事業への参加・協力を行う。	(1) 子育て委員会担当として研修会開催や相談カルテ集計、ミッドワイフ千葉の電話相談協力など。 (2) 南北関東地区研修会準備・当日の協力	<ul style="list-style-type: none"> ・ミッドワイフ千葉に7名協力。 ・子育て委員会は委員会活動報告を参照。 ・症例検討会で電話対応共有。 ・南北関東地区研修会は、大きなトラブルなく救護係対応できた。
4. 災害に備え、体制を整える。	1) 災害時迅速に対応できる災害対策づくり	(1) 連絡網づくり (2) 災害対策協力員の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ライン・Eメール・電話等連絡方法を検討。 ・5名の災害対策協力員確保し、今後も増員を目指す。 ・災害時の迅速な安否確認。 ・他地区での災害イベントに参加、防災意識等再認識を目指す。

4. 専門部会報告

1) 助産所部会

2) 保健指導部

生と性の健康講座チーム

3) 勤務助産師部会

平成30年度 助産所部会 活動報告

委員長 根岸雄子

委員 巻田則子 樋口千美 佐藤裕美

1. 委員会開催状況

開催日	議題	内容	出席者数
4月29日 (日) 総会后	1. 30年度活動計画 2. 南北研修会専門部集会 3. 90周年誌作成準備	・助産業務ガイドライン・基準の確認等 ・助産所経営・集客力の向上に向けての講習会検討・活動写真募集、原稿作成等	8名
6月22日 (金)	1. 日本助産師会総会報告 2. 南北研修会 3. チラシ作成講習会 講師「チラシ先生」	・世田谷区 産後ケア施設が稼働 ・南北研修会参加協力・広告募集等 ・看板広告の紹介および各助産所紙媒体での添削指導等	11名 講習会1名 (7地区より)
8月24日 (金)	1. 南北研修会専門部集会 2. 安全管理機能評価訪問 3. 連携医療機関確保・規約 4. 第2回チラシ作成講習会 講師「チラシ先生」	・助産所部会長の講話依頼と役割分担 ・連携医療機関確保・規約に関する文書内容の必要性等の検討 ・チラシ先生によるチラシ作成の実際と助言指導。対象を明確にした、PRポイントや記載内容・配置など	5名
9月7日 (金)	1. 南北研修会専門部集会開催	・安達氏より検体検査調査報告 ・部会集会受付・資料配布 講演「助産所経営の維持・躍進を目指して」・グループワーク進行・まとめ	巻田・樋口・根岸 安達・岡本氏他23名
10月16日 (火)	1. 安全管理機能評価訪問 2. 助産業務ガイドライン見直し意見・コメント 3. CLoCMIP アドバンス 助産師新規申請・更新 4. 症例報告 ひまわり助産院	・武田助産院評価訪問の日時・評価者巻田委員・樋口委員の決定 ・黄色の注釈部分の意図や出血量や血糖値など数値に関する意見等 ・新規申請・更新、研修会・証明書等 ・グッドジョブ：新生児痙攣の早期発見と連携医療機関との体制	8名
12月11日 (火)	1. 安全管理機能評価訪問の報告 2. 31年度の活動計画 3. 各種調査協力	・訪問評価・個人評価表の提出 ・新生児聴覚検査、検体検査に係る調査依頼協力 ・定例会の開催予定回数・日程の検討 ・31年度以降の交代委員等	5名
1月22日 (火)	1. 理事会報告 2. 30年度活動状況のまとめ 3. 31年度活動計画案等 4. 助産所事例紹介	・産後ケアアドバイザー登録など ・定例会時の先輩助産師を招いて座談会や各助産所の様々な事例紹介等の企画案 ・武田助産院における初産・低身長分娩経過・産後訪問の紹介	4名

2. 平成 30 年度 委員会目標に対する結果・評価

目標	内容	結果・評価
1.助産業務ガイドラインを遵守した安全な助産所運営	<ol style="list-style-type: none"> 1) 各助産所が自己評価を行い、会員及び安全対策委員の訪問による評価を受け、安全管理の意識・質を高める。 2) 3年おき3件の有床助産所の訪問・評価を行う。 3) 各助産所は2014助産業務ガイドラインを遵守する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・有床9ヶ所中8助産所(うち1か所の訪問評価)、無床6ヶ所の評価表の回収・集計をした。全助産所が助産業務ガイドラインを遵守し助産業務を行えている。嘱託医等との内容の共有は、無床の4か所が転院・搬送事例の明文化等を状況に応じて相談している。 ・災害時マニュアル等が準備中、パルトグラムの使用がない、体重計の未点検が有床・無床ともに合わせて8か所と課題が残った。
2.助産所運営の資質向上に向けた努力と、推薦助産所の維持	<ol style="list-style-type: none"> 1) 年4ポイント相当の安全管理研修を必ず受講する。 2) 定例会に年2回は出席する。 3) 新生児・母体救命講習等を受け、日常的に演習し活かす。 4) アドバンス助産師への推進に向け、助産診断・ケア能力・記載能力など向上のための研修を運営・受講する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2回の集客アップに向けチラシ作成の講習会開催しPRの方法を学んだ。 ・8月より分娩の扱いを中止した助産所があった。また、分娩依頼がなく保険をやむを得ず切り替えている助産所が増えつつある。 ・2月24日に3部会合同での新生児の診方のスキルアップ研修を企画した。 ・助産所部会集会では助産所経営の実践例の講話・グループワークにより視野が広まるとともに他県会員との交流も図れた。
3.全国助産所分娩基本データ収集システムの活用。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 全会員のデータシステム登録・利用により転院・搬送報告等を行い、紙媒体報告の負担を軽減 2) 個人情報を守り、分娩統計に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度1助産所が紙媒体報告からIT報告に切り替えた。分娩後から退院後の1週間以内には報告できている。 ・異常・転院分娩の報告においては速やかに報告できるよう取り組んでいる。
4.搬送事例等を通し母子の安全に努める。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 事故、ヒヤリハット・グッドジョブ事例の報告・収集し、検証・検討会を行う。 2) 安全対策委員会に報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全対策委員会でヒヤリハット研修会を進めていたが、日程・講師依頼と様々な研修・事業との調整で開催困難となった。 ・グッドジョブ事例紹介があった。
5.嘱託等医療機関との連携・信頼関係を深める。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 地域産婦人科医会研修等に参加 2) 報告を随時行う等、協力・信頼出来る環境を作る。 3) 医療法改正に基づく周産期救急の医療機関の確保ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月にTYMCと1助産所、9月に亀田総合病院と3助産所の文書による契約が成立した。規約の遵守とともに、助産所の安全性の確保、発展に向け他地域の医療機関の協力依頼を推進していくのが急務である。

3. 次年度(平成31度)課題

- 1) 助産所部会同志・他部会との交流を深め、先輩助産師からの助産の技と伝統を引き継ぐ機会を計画する。
- 2) 助産所の維持・発展に向け、更なる連携医療機関の確保に務める。

平成30年度 保健指導部会 活動報告

委員長 川田まゆみ

委員 大野祐子・渡辺佐智子・河添淳子

1. 委員会開催状況

開催日	議題	内容	出席委員名
4月28日 (土)	保健指導部会集会 1. 活動計画案にそって	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・地区部会長が、各地区の産後ケア事業の現状を報告した。 	大野、渡辺、河添 川田
5月23日 (水)	第1回保健指導部委員会 1. 母乳育児研修会の開催について 2. 南北関東研修会・保健指導部会集会について	<ul style="list-style-type: none"> ・母乳育児研修会を11月25日に教育委員会との合同開催で実施する。講師依頼の当日の進行は保健指導部会が担当する。 ・9月7日保健指導部会集会の内容について検討する。 ・母乳育児支援に関する安全評価の実施は、大潮に鑑文をつけて、同封する。9月10日までに地区会長が回収し、保健指導部会長が集計後、9月30日までに本部に送る。 	大野、渡辺、河添 川田
7月25日 (水)	第2回保健指導部委員会 1. 11月25日研修について 2. 9月7日保健指導部会集会について	<ul style="list-style-type: none"> ・母乳育児研修の講師は、武市洋美先生に依頼した。テーマは、「エビデンスと経験を活かす母乳育児支援」大潮にチラシを同封し周知する。 	大野、渡辺、川田 河添
9月7日 (金)	南北関東研修会・保健指導部会集会	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ「あなたの地域で産後ケア事業を受けていますか」 	大野、渡辺、河添 川田
10月24日 (水)	第3回保健指導部委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・保健指導部会集会の反省 ・母乳育児研修会の打ち合わせ 	大野、渡辺、河添、 川田
11月25日 (日)	母乳育児研修会の開催及び、第4回保健指導部委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・9時30分から12時30分まで、武市先生による講義と実技の研修 	大野、渡辺、河添 川田
平成31年 1月23日 (水)	第5回保健指導部委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度のまとめ ・次年度の活動計画を話し合う。 交流会で行う研修内容の検討と、産後ケア事業の実態調査の検討 	大野、渡辺、河添 川田

2. 平成 30 年度 委員会目標に対する結果・評価

目標	内容	結果・評価
1. 会員ネットワークを推進する。	1) 母乳育児に関する研修会を行い、会員の交流を図る。 2) 南北関東地区研修会の保健指導部会集会で、産後ケア事業の実施について情報交換する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11 月 25 日「エビデンスと経験を活かす母乳育児支援」のテーマで武市洋美先生に講義して頂いた。参加者 37 名。 ・ 千葉地区の「保健政策に助産機能を活かすために」の発表の後、グループに分かれて産後ケアの実際について情報交換。1 時間の集会では、時間が足りないグループも多く、活発な意見交換ができた。参加者 62 名。
2. 地域と施設の連携を図り、安定した継続母子保健活動を行う。	1) 地域の母子保健の担い手として、県、市と連携をとりながら円滑に行えている。 2) 個々のスキルアップを図るために研修会に参加する。 3) 生と性の教育の講師派遣を行う。 4) 産後ケア事業について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政から両親学級や母親学級の講師の依頼を受けて開催している。新生児訪問を行い、貢献している。産後ケア事業の依頼を受け、協力している。 ・ 千葉県助産師会ホームページに申し込みのあった講師派遣は、順調に行えている。学校から講師からの連絡が来ていないとの問い合わせが、2 件あり、対応した。 ・ 千葉県助産師会総会後の交流会の時に、地区部会長より、各地区の産後ケア事業の実情を発表してもらい、情報交換した。今後とも継続して情報交換が必要である。
3. 安全対策管理の徹底と周知を図る。	1) 母乳育児支援に関する安全評価を実施する。 2) 開業助産師の保険加入の徹底 3) ヒヤリハットの事例を共有し、安全に行動できるように心がける。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健指導部会会員における安全評価の結果の集計を、9 月 30 日に本部に報告した。回収率 56%であった。 ・ 開業助産師の保険加入率は上がっている。 ・ ヒヤリハット事例を安全委員会で共有した。個人情報の取り扱いにおけるヒヤリハット事例があがってきた。

3. 次年度（平成 31 年度）課題

- 1) 保健指導部会員の交流を深め、ネットワークを強化する。
- 2) 保健指導部会員の向上と安全対策管理の徹底。
- 3) 産後ケア事業の推進と情報の共有。

平成30年度 生と性の健康講座チーム 活動報告

委員長 小路和子

委員 増田文子 伊藤志保 鶴岡利江子 狛千恵子
 斉藤葉子 川島広江 根岸雄子

1. 委員会開催状況

開催日	議題	内容	出席委員名
10月14日(日)	1. 前年度までの振り返り 2. 今年度の活動計画の確認 3. 今後の日程の検討	・チームに至るまでの経過確認 ・マニュアルの内容について検討 ・交流会の日時、場所の決定	伊藤、鶴岡、斉藤 小路
12月16日(日)	1. チームの目標、活動について 2. 交流会について	・現在活動している登録講師だけでなく、すべての会員にアプローチしていく ・交流会の目的を確認 ・内容の検討 ・当日までの役割分担	増田、鶴岡、狛、 川島、根岸、小路
1月6日(日)	1. 交流会準備 2. 来年度の活動について	・進行、役割確認 ・会員に情報を届けるために、具体的な方法について ・来年度交流会の日程について	増田、伊藤、鶴岡 狛、齋藤、川島、 根岸、小路
1月6日(日)	1. 交流会の開催	・テーマ『生と性の健康教育を深めるために』 ～“助産師が行う”を極める～ ワークショップ ①“助産師”を楽しむ ②“会”で共有して行う ③“地域”を育てる ・参加者26名。	増田、伊藤、鶴岡 狛、齋藤、川島、 根岸、小路
2月21日(木)	1. 来年度の活動計画案の検討	・来年度の活動目標を確認 ・ニュースレターのコンセプト、各号のテーマの決定、役割分担	増田、伊藤、鶴岡 川島、小路

2. 平成 30 年度 委員会目標に対する結果・評価

目標	内容	結果・評価
1. 「生と性の健康講座」の登録講師名簿の管理と講師間の交流を行う	<p>1) 地区から認定された登録講師の名簿を作成し管理する</p> <p>2) 講師育成フローチャートに従い、講師を育成するための情報を提供する</p> <p>3) 講師育成のプログラムマニュアルの見直しを行う。</p> <p>4) 健康講座の教材の管理を行う。</p> <p>5) 登録講師同士の情報交換会を行う。</p>	<p>1) 今年度、登録講師として活動した人は 49 名で、昨年度より 2 名増えた。</p> <p>2) 各地区で講師育成ができるところは、地区に任せる。地区に指針がないところはフローチャートに沿う形とした。情報提供については、今年度はできなかった。来年度に向けて、ニュースレターの発行など情報提供の具体的な方法を検討した。</p> <p>3) マニュアルの意味、内容について話し合った。継続して検討する。</p> <p>4) 現在、チームとして教材を保有していない。</p> <p>5) 「健康教育は助産業務の大きな柱の一つであること」「思春期の問題を理解することが、日常の母子保健事業にも活かされること」を踏まえ、登録講師間の情報交換にとどまらず、会員に広く呼び掛けて、「生と性の健康講座」に関心を持ってもらうこと、やりたいと思っている人の背中を押せることを目標に交流会を開催した。 26 名の参加があり、半数は講師以外の人であった。</p>

3. 次年度（平成 31 度）課題

- 1) 会員に必要な情報をタイムリーに届ける。
- 2) マニュアルについての検討

平成30年度 勤務部会 活動報告

委員長 清水清美

委員 市川智子・石井愛・小野寺由美子・岸本優子

1. 委員会開催状況

開催日	議題	内容	出席委員名
4月28日(土)	1. 目的・年間計画 2. 南北研修における部会集会のテーマ	・総会後顔合わせ ・実施してほしい研修について、会員の意向を聞く ・南北研修会・部会集会のテーマを検討し「産後2週間健診」とする。	清水・石井
5月3日(木)	メール会議 1. 年間研修計画(案)提案 2. 新規役員増員について	・年間研修計画(案)の提案 ・新規委員増員について提案	清水・市川・石井・小野寺
6月5日(火)	2. 新規役員増員について 3. 研修役割分担 4. 南北研修・部会集会について	・勤務部会委員の増員(3 地区岸本優子さん推薦→7/8 理事会にて承認を得る) ・研修会テーマを「もう一度見直そう NCPR」「周産期メンタルヘルス どのように支援する?どのようにつなぐ?」と決定。 ・南北研修(部会集会)の講師を選定。	清水・市川・小野寺・岸本
9月7日(木)	1. 南北研修・部会集会について	・当日の役割分担および手順 ・必要機材の受けわたし	清水・石井
9月8日(金)	1. 南北研修・部会集会「産後2週間健診」開催 2. 研修の進捗状況確認	・会場準備・講師接待 ・参加者受付 ・研修会開催 開催後、反省会、アンケート集計、今後の研修(NCPR・メンタルヘルス)の進捗状況確認	清水・石井・市川・小野寺
11月17日(土)	研修会(NCPR)開催	・会場準備・講師接待 ・参加者受付 ・研修会開催 ・後片付け・反省会	清水・石井・市川
12月15日(土)	研修会(メンタルヘルス)開催	・会場準備・講師接待 ・参加者受付 ・研修会開催 ・後片付け・反省会	清水・岸本
12月18日(火)	メール会議 役割分担	・会計報告、報告書作成、次年度の計画書作成、勤務部会の報告(大潮)	清水・石井・市川・小野寺・岸本
2月2日(土)	メール会議 1. 次年度年間計画	・年間研修計画(案)の提案 ・石井愛委員の任期終了の確認	清水・市川・石井・小野寺・岸本

2. 平成 30 年度 委員会目標に対する結果・評価

目標	内容	結果・評価
1. 専門性の高い知識・技術の習得を推進する	1) 会員のニーズを把握する。 2) 会員のニーズを受けて研修会を開催する。(2回)	会員のニーズが高く、タイムリーな内容を検討し①「もう一度見直そう NCPR」(安全研修 2 ポイント)②「周産期メンタルヘルス」のように支援する?どのようにつなぐ?(一般研修 2 ポイント)を開催した。前者は参加者 15 名、後者は参加者 34 名であった。参加者の満足度は高く、非会員からは入会を検討する人もおり、概ね達成できたと考える。
2. 助産師外来・院内助産院の開設を推進する	1) 「産後ケア」や「院内助産施設」を実施している病院・クリニックへの見学ツアーを開催する。(1回)	会員のニーズの優先順位が低く実施せず。予算の限度もあり、今後は会員のニーズが高い研修を優先する。
3. 会員ネットワークの推進を図る	1) 上記の 1) と 2) の活動時に参加者同士の交流時間を設け、情報交換の場を作る。 2) 助産所部会・訪問指導部会との交流の機会を持ち、地域の助産師同士のつながる場を作る。	総会後に会員から提案された。「産後 2 週間健診」について、すでに実践している 2 施設から話題提供をいただき、情報交換するという設定で、南北研修会「勤務部会集会」を実施した。参加者は千葉県を初め、茨城、長野、静岡、山梨等から 32 名が参加。各々の実情や課題を報告しあい、概ね達成できたと考える。
4. 会員のニーズに沿った部会改革	1) 委員を増員し、委員の意見から部会の在り方を検討する。 2) 委員をとおして勤務部メンバーの参加を呼び掛ける。 3) 新会員の増員を図る。	委員を増員することで、現場から部会の要望を吸い上げることに貢献できたと考える。

3. 次年度(平成 31 度)課題

- 1) CloCMiP®ラダーⅢ対応の指定研修を勤務部会の会員のニーズに沿って開催する。
- 2) 切れ目のない産前産後支援を検討する上で、地域における連携を図る目的で、勤務部会と他部会(保健指導部会・助産所部会)との交流の機会をつくる。

5. 委員会活動報告

- 1) 教育委員会
- 2) 子育て委員会
- 3) 安全対策委員会
- 4) 災害対策委員会
- 5) 広報委員会
- 6) 将来構想検討委員会
- 7) 細則検討委員会

平成30年度 教育委員会 活動報告

委員長 東 亜紀

委員 岩本友恵 小柴和子 戸田さおり 藤間由希 宮澤純子

1. 委員会開催状況

開催日	議題	内容	出席委員名
4月8日(日)	1.活動計画と教育計画 2.委員会および研修会役割分担 3.委員任期確認 4.今後の予定	<ul style="list-style-type: none"> 活動計画と教育計画の決定 今年度予算及び役割分担の決定 地区報告会の日程確認 伊東厚子先生の研修会決定(7/29) 参加者を増やすための宣伝方法 アドバンス助産師認定研修を計画 小柴委員の任期終了の確認 	小柴、戸田、藤間、宮澤、東
4月28日(日)	1.報告 1)会計監査の指摘 2)印刷について 2.教育計画 3.90年誌執筆担当 4.研修会役割分担の再確認	<ul style="list-style-type: none"> 地区報告会日程の再確認 J-MELS ベーシックコースの日程及び役割の決定(7/1) 保健指導部合同(11/25AM) 安全対策委員会合同(11/25PM) 	岩本、戸田、藤間、宮澤、東
7月29日(日)	1.報告 1)委嘱状 2)会計 2.教育計画進捗状況 3.90年誌記事入稿	<ul style="list-style-type: none"> 地区報告会の日程決定(4/27総会) J-MELS ベーシックコース収支及びふり返り ポイント申請の変更に伴う参加者名簿と修了書の変更 申請のための支払い 	岩本、小柴、戸田、藤間、宮澤、東
10月14日(日)	1.H31年度教育計画 2.地区報告会計画 3.大潮原稿担当 4.次回研修会打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> アドバンス助産師認定研修、日本助産機構及び日本助産師会の資料の確認 地区報告会計画の確認及び決定 大潮(11月戸田、2月岩本) 	岩本、戸田、藤間、宮澤、東
1月27日(日)	1.次年度教育計画 2.地区報告会 3.大潮原稿入稿 4.次年度予算案	<ul style="list-style-type: none"> 継続教育ポイントの報告方法 次年度研修会の参加費について CloCMiP®ラダーⅢ対応について 次年度予算案の確認(次年度参加費の検討) 次回委員会日程 	岩本、小柴、藤間、宮澤、東

2. 平成 30 年度 委員会目標に対する結果・評価

目標	内容	結果・評価
<p>1. 助産師の継続教育に必要かつ効果的な研修会を開催する</p>	<p>1)日本助産師会と連携し、体系化した教育計画を立案する</p> <p>2)教育計画に基づいた研修会を企画し、運営する</p> <p>3)受講者のニーズを満たす研修会内容や研修方法を工夫する</p> <p>4)受講者数が増加するように広報活動を行う</p> <p>5)専門部会・他委員会と連携し、効果的な研修会を実施する</p> <p>6)実施した研修会が継続教育に有効であったかを評価する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本助産師会の教育体系にそって教育計画を立案・実施した。そのうち、CloCMiP®ラダーⅢ対応の指定研修(3)、必修研修(1)を開催した。 ・CloCMiP®ラダーⅢ対応の研修会は受講者のニーズと一致していると考えていたが、参加者は平常と変わらなかった。オンデマンド研修の受講料と比較すると高額となるため、次年度の検討課題としていきたい。 ・一方、研修会終了時のアンケート結果は概ね良好であることから、各研修会内容、方法は受講者のニーズに合っていたと評価する。 ・HP 及び大潮での広報が遅れた。次年度は、他部会の研修会を含めた年間計画を早期に掲載していきたい。 ・研修会終了時のアンケート結果や継続教育ポイント（日本助産師会）の認定実績、CloCMiP®ラダーⅢ対応の指定研修(3)、必修研修(1)を開催できた実績から、概ね有効であったと評価する。

3. 次年度（平成 31 度）課題

- 1) 助産師の継続教育として、CloCMiP®ラダーⅢ対応の【一般】【開業型】を中心とした研修会を開催する。
- 2) 他部会と連携した年間計画を実施する。
- 3) 効果的な広報活動を実施する。

平成30年度 子育て委員会 活動報告

委員長 山岸由紀子

委員 加藤睦 小路和子 高橋薫

1. 委員会開催状況

開催日	議題	内容	出席委員名
4月23日(月)	・年間計画 ・役割分担	・前年度担当9地区からの引き継ぎ内容の確認 ・年間計画 事例検討会を2回実施する 第1回目 7月8日柏市で開催 ・役割分担	全員
5/22 5/28 6/2 6/9 LINE 会議	・第1回事例検討会 について	・事例検討会の広報について ・会場の確認 ・リマインドメールについて	全員
7月8日(日)	第1回事例検討会 ・第2回事例検討会 について	事例検討会 (柏市窪谷産婦人科地下ホール) ・赤ちゃんの泣きへの対応 ・子どもが可愛く思えないという相談への対応 ・相談事業についての意見交換 ・第2回事例検討会について開催場所を決定 ・日程は会場確保と合わせて調整へ	事例検討会 参加者 20 名 全員
10/11 10/17 10/18 10/19 LINE 会議	・電話対応について ・第2回事例検討会 について	・男子大学生からのほぼ連日の相談への対応につ いて ・第2回事例検討会の周知について	全員
10月29日 (月)	・第2回事例検討会 について ・来年度に向けて	・第2回事例検討会運営について ・来年度協力員募集について ・来年度相談体制とマニュアル作成等について ・理事会報告事項	全員
11/9 11/19 11/30	・大潮原稿 ・来年度協力員募集 について ・第2回事例検討会 について	・12月発行大潮原稿の確認 ・大潮発送時に同封する協力員募集に関する事項 ・第2回事例検討会について	全員
12月15日 (土)	第2回事例検討会	第2回事例検討会 (山口病院) ・男子からの思春期相談への対応 ・祖母からの繰り返しの相談対応 ・相談事業についての意見交換	参加者 23 名
1月7日(月)	・次年度にむけて	・協力員登録状況の確認 ・紹介先助産院の確認 ・フライヤー準備 ・マニュアル改定作業	山岸・加藤 小路・高橋 新井・鎌田
1月15日(火)	・次年度にむけて	・作業の確認 ・理事会提出資料について ・大潮原稿打ち合わせ	山岸・加藤 高橋
2月25日(月)	・次年度に向けて	・相談員用マニュアルおよび資料作成 と発送準備	全員
3月18日(月) (予定)	・フライヤーの発送 作業(行政宛て)	・行政への挨拶およびフライヤー発送作業	全員
3月22日(金)	・2地区への引継ぎ	平成31年度担当2地区への引き継ぎ	全員

2. 平成 30 年度 委員会目標に対する結果・評価

目標	内容	結果・評価
1. 電話相談事業の運営を円滑に行う	1) 電話相談事業の運営 (1) 相談体制の継続 (2) 確実な実施のためのバックアップ体制の整備 (3) フォローが必要な事例への対応 (4) 各地区の相談員連絡係との連携 2) 次年度の協力員の確保および相談体制の整備 (1) 広報「大潮」に活動内容等の報告を随時掲載し、会員への理解を図る (2) 協力員の負担を最小限にしたシフトの作成 (3) 助産師紹介用マップの更新 (4) 相談マニュアルを更新し相談員に配布する 3) 今後の課題に取り組む (1) 相談マニュアル資料や相談カルテ書式の検討 (2) 活動資金としての、補助金獲得に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・電話相談担当表をもとに相談員各自が転送作業を実施し、相談業務にあたった。リマインドメールに気づかなかったなどの理由で年間通して 2 日間相談対応できなかった日があった。リマインドメールへの返信確認など、担当忘れがないよう対策を検討。 ・行政へのつなぎなどフォローが必要なケースは電話当番を担当した相談員が自ら行ったものと、委員会への依頼により委員長から実施したものがあつた。 ・次年度シフトについては、広報誌の「大潮」へ協力依頼を同封すると同時に、現相談員への継続依頼メールなどにより 44 名の協力を得ることとなった。 ・紹介先助産院の確認も実施した。 ・マニュアルについては、昨年に引き続きの情報を再確認し、修正を加えたものと、委員会で検討し相談対応に有用と思われる情報を追加した。 ・運営上の課題が長年未解決のままとなっており、解決にむけてプロジェクトチームの結成など理事会に提案した。 ・活動資金獲得については、理事会を中心に準備を進めてもらった。
2. 相談者の増加を図る	1) 県民への周知を図る (1) 広報チラシを活用し周知を図る (2) 会員を通しての医療機関への周知 2) 会員への周知 (1) 相談カルテから得られる情報を集計し広報誌「大潮」総会冊子等で報告 (2) ホームページの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・集計から本相談を知ったきっかけは、母子健康手帳交付時、新生児訪問や妊婦健診などの機会が多い。また、千葉県内外ともにインターネットでたどり着く相談者もある。チラシおよびホームページからのアクセスを意識して継続した周知を図っていく。 ・相談件数は年間 1200 件を超える相談が寄せられ 1 日 10 件以上となることもあり、対応しきれない状況も出てきている。引き続き集計で動向を見極めて事業計画見直し等に反映させていく必要がある。
3. 相談員の質の向上に努める	1) 事例検討会・研修会の開催 2) 相談員からの意見を求める	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討会を 2 回実施。またそれに合わせて意見交換および情報交換を実施した。 ・プロジェクトチームを作るなどして幅広い相談に専門職として対応できるだけの準備ができるよう、マニュアルの整備も含め情報共有の方法を検討していく必要がある。

3. 次年度（平成 31 度）課題

- 1) 電話相談員の質向上への取り組み（相談員同士の効果的な情報共有システムを検討）
- 2) 活動資金獲得に向けての取り組み（理事会との協力）

平成30年度 安全対策委員会 活動報告

委員長 根岸雄子

委員 川田まゆみ 清水清美 吉岡由紀子 菅谷厚子

1. 委員会開催状況

開催日	議題	内容	出席委員名
5月20日 (日)	1. 活動計画の確認 2. 3部会合同研修会の検討	1) 推薦助産所の基準の確認と現状報告 2) 日時の決定と内容検討(講師・場所・日時・講師料・参加費・文書各役割分担・チラシ作成等募集に向けて)	根岸 川田 清水 吉岡 菅谷
7月後半 8月後半 9月後半	1. 研修会に向けてのメール会議	1) 南北関東研修会準備のため、会議等計画内容の調整・検討 2) 母子保健指導業務や助産業務におけるヒヤリハット事例・対策	根岸 川田 清水 吉岡 菅谷
10月28日(日)	1. 3部会合同研修会の再検討 2. 助産所安全管理評価訪問日時・評価者	1) 今年度のヒヤリハット事例研修会の中止決定(講師・募集内容の不備等にて) 2) JCR ファーマーの研修会の日時の決定と内容検討(講師・場所・日時・講師料・参加費・文書)各役割分担・チラシ作成等募集に向けて 3) 12月助産所部会委員にて実施	根岸 川田 清水 吉岡 菅谷
2月24日 (日) 予定	1. 研修会後の反省 2. 各部会のまとめ 3. M助産院動向 4. 推薦助産所	1) 10:00~10:05 開会の挨拶 10:05~13:05 講演 子どもの診方 ~最新のトピックスと知っておきたい基礎知識~ 講師 東出 崇 医師 はぐはぐキッズクリニック院長 13:05~13:10 閉会の挨拶 2) アンケート集計	根岸 川田 清水 吉岡 菅谷

2. 平成 30 年度 委員会目標に対する結果・評価

目標	内容	結果・評価
1. 助産所安全管理評価を助産所部会と共同実施	1) 助産所安全管理評価を1助産所3年毎に行う。 2) 開業助産所の嘱託医、嘱託医療機関との契約更新有無の確認 3) 推薦助産所の審議を行い、決定し、決定内容を理事会に挙げる。 安全管理評価を受け、安全ポイント4以上、部会出席2回以上のクリアしていること	1) 武田助産院を巻田委員・樋口委員が訪問し、評価を行った。12月に有床8か所無床6か所回収し1月に集計・報告を行った。 2) 1助産所が産後ケアを中心に取り組む助産所に部会移行し、助産所が嘱託医契約の見直しのため加入保険を指導部会の保険に切り替えている。 3) 定例会出席は2回のみのお出席が多く全体の参加者が少なくなっていることを受け、回数・内容・時期の見直しを図る必要がある。 研修においては、各地域医療諸機関で開催の勉強会、研修会にはほぼ参加ができています。
2. 3部会と連携をとり、資質向上を目指した研修会を行う。	1) CloCMip 認定：3部会で共通事項に合わせて研修会の実施予定である。日本助産師会の研修内容を参考に考慮し実施する。	1) 2月24日にJCRファーマー共催で「子どもの診方スキルアップ」研修に早々の参加希望多数の中、38名参加の開催となった。 アドバンス助産師更新への意識の高さ、スキルアップに向け各自の取り組みが伺える。 終了証明書には承認番号記載が必須である。
3. 母乳育児支援の向上を図る。	1) 「母乳育児支援安全評価」を実施・集計・分析し、結果から評価を広報等に掲載して共通認識をもつ。 2) 記録は、日本助産師会「母乳育児記録」を参考に使用して使用する。	1) 保健指導部会員のみの回収とした。母乳育児支援における安全性を高めるための自己評価であり、できていないところを認識し、改善していく。回収率は、56%であった。
4. 分娩件数・事故・転院・搬送事例、ヒヤリハット事例の報告を的確に行える。	1) IT 及び紙媒体によるデータ入力、報告は速やかに行う。 分娩件数は1週間以内には行う。 2) 搬送事例は助産所部会で検証して再発防止に努める。→委員会報告 3) ヒヤリハット事例は体験報告書に基づき、各地区からの報告を受ける。事例は共有して、資質の向上につなげる。	1) 1助産所が紙媒体からIT報告に切り替えている。管理費については年間8400円の自動引落となっているため費用の入の遅延はなくなっている。しかし入力に関しては、毎月の利用には各人で個人差があり、操作に不慣れでロックがかかる問題が続発している。 2) 妊娠中の転院・報告にとどまっていることから、早めの安全な分娩管理がガイドラインに沿って行われていると推測できる。 3) 生命に直結するヒヤリハット事例報告はないが、母子健康手帳や訪問記録など個人情報の遺失、取り扱いに関するヒヤリハット事例が報告されているため、注意喚起が必要である。
5. 保険の加入の推進	1) 3部会ともに安全を担保するために、保険加入を進めていく。	開業助産所向けの保険加入から、分娩依頼があるまでは保健指導部の保険加入に自主的に切り替えながら加入継続をしている助産所が増えてきた。

3. 次年度（平成 31 年度）課題

- 1) 安全な活動に向けた、各部会の保険加入状況の把握
- 2) 3部会の情報交換とともに安全管理への注意喚起・意識が高まる

平成30年度 災害対策委員会 活動報告

委員長 島森孝恵
 委員 伊藤志保 進藤典子 塩見良子
 地区委員 石毛光代 井上由子 金子美有紀 平良奈美
 田邊悦子 西宮慎子 山岸由紀子

1. 委員会開催状況

開催日	議題	内容	出席委員名
5月22日(火)	第1回役員会	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の防災訓練について ・シミュレーション訓練について ・マニュアル内容訂正箇所について ・災害対策本部機材の確認 	武田、伊藤、塩見、島森、進藤
6月3日(日)	第1回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害避難訓練 報告 ・シミュレーション訓練について ・今後の委員会、防災訓練について ・支援登録者変更、連絡網の整備 	伊藤、井上、金子 塩見、島森、進藤、平良、田邊、西宮 山岸
8月2日(木)	第2回役員会	<ul style="list-style-type: none"> ・九都県市合同防災訓練について ・シミュレーション訓練 シナリオ ・南北でのマニュアル販売について ・事務所の機材 	武田、伊藤、塩見、島森、進藤
8月19日(日)	第2回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・九都県市合同防災訓練について ・シミュレーション訓練 シナリオ ・保険について ・南北でのマニュアル販売について 	伊藤、井上、金子 塩見、島森、進藤 平良、田邊、西宮 山岸
10月10日(水)	災害時初動シミュレーション訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・シナリオに沿っての訓練 ・訓練後の会議、報告書作成 	災害対策委員 千葉県助産師会会員
11月18日(日)	第3回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練報告 ・シミュレーション訓練反省 ・ボランティア保険について ・安否確認訓練について 	伊藤、金子、塩見 島森、進藤、田邊 山岸
1月21日(月)	第3回役員会	<ul style="list-style-type: none"> ・成田赤十字病院 連絡会 報告 ・30年度活動報告 31年度計画 ・31年度九都県市合同防災訓練 ・防災訓練 内容見直し ・シミュレーション訓練について ・委員会会計 等 	武田、伊藤、塩見 島森
2月5日(火)	災害に対応する訓練「日本助産師会主催」	<ul style="list-style-type: none"> ・安否確認、状況確認訓練 	災害対策委員 千葉県助産師会会員

2. 平成 30 年度 委員会目標に対する結果・評価

目標	内容	結果・評価
1. 災害対策委員会を開催する。	1) 通常定例会及び必要に応じ臨時会議を開催する。 2) 各地区との情報の共有や、また問題発生時には解決に努める。	1) 通常定例会は3回の開催となった。 2) 委員会グループラインにて、情報の共有はできている。
2. 災害時支援のシミュレーションができる。	1) 地区毎に災害時マニュアルを用いた勉強会を実施する。 2) 災害時マニュアルの熟読を推進する。 3) 災害対策研修会に参加する。	1) 地区による勉強会の実施の有無は地区により違う。 2) 地区毎に推進はしている。 3) 千葉県助産師会の中で、災害時初動シミュレーション訓練を実施した。
3. 災害時支援協力員の確保	1) 災害時支援協力員登録の実施 2) 災害時支援協力員募集の啓蒙活動の実施	1) 実施はしているが、見直し必要。 2) 各地区定例会を通じ継続中。
4. 災害時連絡網の整備	1) 災害時用の千葉県助産師会における連絡体制を整備する。 2) 各地区の連絡網を整備する。 3) 地区会員にならない会員への安否確認連絡を整備する。	1) 災害対策本部側と地区委員側での連絡体制はできているが、見直しの必要性有り。 2) 整備継続中。 3) 整備継続中。
5. 災害時グッズの整理	1) 災害対策本部用の設備機材の使用期限を確認する。 2) 防災訓練グッズを整理する。	1) 確認はできた。 2) 災害対策本部4ヶ所の必要物品の整理ができた。
6. 日本助産師会及び近隣都道府県助産師会との連携を強化する。	1) 日本助産師会主催及び他機関主催の災害対策研修会へ参加する。 2) 日本助産師会研修会等で近隣助産師会の災害時支援の連携について検討し合う。	1) 日本助産師会の研修に参加した。 2) 南北関東地区代表者会議にて検討予定。
7. 地域の災害対策事業に参加する。	1) 市町村との災害時支援協力を図る。(災害時支援協定) 2) 災害時支援協定後の市町村と細部の活動を確認する。 3) 地域の防災訓練に参加し、助産師活動をアピールする。	1) 5/16 習志野市と協定締結された。 3月中に佐倉市「協定に係る覚書」締結予定。 2) 市により確認作業が進められている。 3) 市原市、勝浦市、習志野市、佐倉市での防災訓練に参加した。

3. 次年度（平成 31 年度）課題

- 1) 災害時支援マニュアルの見直しをする。
- 2) 災害時支援協力員を確保する。
- 3) 各地区の連絡網の整備をする。
- 4) 市町村との災害時支援協力を図る。(協定締結、防災訓練参加)
- 5) 地域活動の中で助産師活動のアピールに努める。
- 6) シミュレーション訓練を見直し、引き続き行う。
- 7) ボランティア活動、ボランティア保険を含む災害対策について学ぶ。

平成 30 年度 広報委員会 活動報告

委員長 鈴木香里

委員 山本裕子 美濃口真由美 佐藤静子

1. 委員会開催状況

開催日	議題	内容	出席者・担当者
4月28日	・第1回委員会、「総会後、前役員から引継ぎ」 ・大潮26号の内容確認 ・1年間の役割分担決め	・会員へ助産師会リーフレット配布 ・新理事の写真の撮影 ・分担(会計佐藤/編集美濃口) ・原稿依頼を執筆者に打診・予告	(前任)加藤、黒坂 (新委員)鈴木、山本、佐藤静、(美濃口)
5月20日	・大潮26号原稿依頼	・メールにて原稿依頼、〆切 6/20	鈴木
6月20日 ～ 7月4日	・大潮編集作業	・大潮26号原稿を校正見直し作業 ・ドライブ、メール、ライン会議 ・執筆者へメールで原稿確認	鈴木、山本、美濃口 山本
7月4日	・明峰印刷への入稿 ・若葉郵便局集荷依頼		山本 山本
7月21日	・大潮26号発行 ・第2回委員会	・発送作業(事務所にて) ・大潮27号の発行日・内容の検討	広報委員、武田、渡辺、熊谷、教育
7月23日	・HP掲載依頼 ・若葉郵便局集荷・発送 ・明峰印刷、郵便局支払い	武田企画へメール連絡	山本 山本、金親 佐藤静
10月1日	・大潮27号原稿依頼	・メールにて原稿依頼、〆切 11/11	鈴木
11月11日 ～ 11月21日	・大潮編集作業	・大潮27号原稿を校正見直し作業 ・ドライブ、メール、ライン会議 ・執筆者へメールで原稿確認	広報委員 山本
11月22日	・明峰印刷への入稿 ・若葉郵便局と調整	・10ページに変更 ・郵送費確認、集荷の新契約	山本 山本
12月11日	・大潮27号発行 ・第3回委員会	・発送作業 ・大潮28号発行日・内容の検討	鈴木、山本、美濃口、佐藤静
12月10日 12月14日	・HP掲載依頼 ・若葉郵便局集荷・発送 ・明峰印刷、郵便局支払い	・武田企画へメール連絡	山本 金親 佐藤静
1月9日	・中川海苔店協賛広告依頼	・電話→見本郵送→メール	鈴木
1月15日	・大潮28号原稿依頼	・メールにて原稿依頼、〆切 1/28	鈴木、佐藤
1月25日 ～ 2月8日	・大潮28号編集作業	・大潮28号原稿を校正見直し作業 ・ドライブ、メール、ライン会議 ・執筆者へメールで原稿確認	広報委員 美濃口
1月28日	・明峰印刷と調整		美濃口
	・若葉郵便局へ連絡 ・HP掲載への依頼	・武田企画へメール連絡	山本 山本、美濃口
3月16日	・大潮28号発行 ・第4回委員会	・発送作業 ・次年度役割分担・大潮の内容検討	広報委員、米村、山岸、国助委員
3月18日	・若葉郵便局集荷発送 ・明峰印刷、郵便局支払い	・中川海苔店様5部郵送	金親 佐藤静

2. 平成 30 年度 委員会目標に対する結果・評価

目標	内容	結果・評価
1. 計画的、効率的に大潮発行活動に取り組む。	1) 大潮発行年間計画を作成、年3回発行。 2) 原稿依頼・編集・発送に関して、委員の役割分担を明確にし、効率的に大潮の作成を行う。 3) 役割分担を明確にして理事にも提示。 発送に関しては、庶務と事務と密に連携をとる。 4) 各委員の進捗状況はメールを活用しながら確認し、各自の役割を果たす。	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に基づき、『大潮』26号・27号・28号を発行 新委員の美濃口委員は編集、佐藤委員は原稿依頼を実施 27号で発送の遅れと封入ミスがあったため、今後の対策を検討した。 庶務の発送作業参加は3月のみの為、7月と12月の作業日は不測の事態にはメールと電話で対応した。 事務員に事務所で対応してもらうことが増えたため、事務作業をマニュアル化し紙面で残すなど工夫が必要である。 広報委員のメールは、広報委員会のアドレスにも送信することで各々の状況を確認し、各自の役割の不足部分は他の委員が補えた。 編集作業はグーグルドライブ、ライン、メールを使用し情報を共有したことで、効率的に編集活動できた。 校正・編集の際、原稿執筆した方から、意図しない校正になっていると指摘を受けることがあった。校正する際、執筆者の意図に沿えるよう努力していく。
2. 大潮を通して会員への広報を図る。	1) 内容を充実させ、興味のもてるものにする。 ① 千葉県助産師会の事業や理事会の情報を積極的に掲載 ② 時期に合う内容・読みやすい紙面作りを検討 ③ 会長、理事、役員と内容確認 ④ HPとメールリスト活用について広報	<ul style="list-style-type: none"> 理事会日程、研修会の日程・内容・報告を記載した。 執筆者の所属を入れる事で、会員や会員外にも、助産師の所在や活動をアピールするようになった。 原稿依頼から発行日迄約2ヶ月かかるため、タイムリーな報告は出来ないこともあったが、時期にあった内容を相談して掲載した。 イベントの写真を積極的に撮影し、掲載した。 研修やイベント時など、理事と顔を合わせた時に情報交換した。 研修会の詳細をHPで確認、申し込みするよう案内した。 他団体の研修会の案内も来ることを知らせ、メールリストへの登録を促した。
3. 他機関への広報活動の充実を図る	1) 大潮は、千葉県助産師会の活動状況を他機関に情報提供 2) 大潮は、日本助産師会及び他機関へ送付 3) HPに掲載 4) リーフレットを活用した広報活動	<ul style="list-style-type: none"> 役員と内容について連絡・確認し、会の活動にほとんど参加していない会員や、他機関へも会の活動がわかるような内容になるよう努めた。 庶務と連携し、大潮を日本助産師会及び産科クリニック、保健所などの他の医療機関へ送付した。 武田企画に依頼し、HPへ掲載した。 総会で配布、新入会の会員へ同封した。
4. 千葉県助産師会の活動を記録	1) 千葉県助産師会の記録に残すべき活動を理事と相談し検討 2) 会活動を撮影、記録 3) 撮影データを整理・保存し必要時広報活動に使用。	<ul style="list-style-type: none"> 理事に依頼された行事の記録をした。また、広報の記事として適切な行事の撮影を行った。(総会、菜の花会) 出席者が協力して撮影、または他の方が撮った写真を頂いたものも使用した。(南北関東地区研修会) 撮影したものの整理が十分ではないが、保存されている。今後、どのように保存するか、どう引き継いでいくかが課題になる。
5. 協賛	1) 協賛広告依頼	<ul style="list-style-type: none"> 大潮 28号 29号 30号に中川海苔店の広告を掲載予定である。

3. 次年度(平成 31 年度)の課題

- 1) 何を掲載するか記事を絞り込み、大潮の各記事の内容を充実
- 2) 千葉県助産師会事務員、庶務が混乱なく大潮発送ができるよう手順をマニュアル化
- 3) 写真の整理、保存の方法
- 4) コスト削減

平成30年度 将来構想検討委員会 活動報告

委員長 武田智子

委員 佐藤美保子 増田美恵子

根岸雄子 川田まゆみ 清水清美

1. 委員会開催状況

運営会議および理事会で検討

2. 平成30年度 委員会目標に対する結果・評価

目標	内容	結果・評価
1. 社会のニーズおよび国・県・市町村の動きを把握し、助産師会活動に反映できる事業を検討する。	1) 国・県・市町村から発信された情報を収集する。 2) 対外的機関との連携に努め、新たな情報収集に努める。 3) 情報を役員会や理事会で共有し、事業展開について検討する。 4) 事業展開に向けた準備に、必要に応じて着手する。	1) 2) 行政・関連機関の会議や話し合いに参加することによって情報収集した。 3) 収集した情報を運営会議や理事会で共有し、産後ケアや災害支援等における行政及び関連機関の事業に協力した。 4) 妊娠 SOS 事業については事業展開できなかったが、今後委託事業の要請があれば随時検討を行っていく。
2. 会員の増加に努め、マンパワーの把握と育成の提案を行う。	1) 会員の増加に努める。(目標：375名) 2) 会員の活動調査内容を把握し、必要な情報を発信できる。 3) 会員の育成に必要な研修会を提案する。	1) 会員数 365 名 (2月15日現在) 2) 新入会者の活動内容の把握はでき、既存会員の新情報についても活動調査で把握し、「大潮」や総会冊子に掲載した。 3) 各委員会・部会に研修会の提案をし、協力できた。
3. 組織運営に必要な事務所の管理・運営について、具体策を決めて実行する。	1) 事務所の管理・運営方法の詳細を決定する。 2) 事務員と庶務の業務を整理し、事務作業を円滑にする。 3) 事務員の雇用の維持・安定化を図る。	1) 事務所の整備を行い、管理・運営方法を決定した。 2) 事務員と庶務の業務を整理したが、業務内容が円滑に進まないこともあった。 3) 事務員を雇用したが、安定には至らない。
4. 助産院の存続と発展に向け、後継者育成を検討する。(院内助産院も含む)	1) 助産院(有床・無床)の減少を最小限にし、継続・発展するために後継者の育成を図る。 2) 助産所経営の在り方を模索し、話し合う。 3) 各専門部会の会員の意見を収集する。 4) 他県で活発に運営している助産所施設の見学を通して学ぶ。	1) 2) 分娩を取り扱う助産所は、やや減少(有床6か所、無床6か所)したが、後継者の育成や助産院の存続に向けた話し合いは今後も継続していく。 3) 各専門部会の会員の意見は部会集会等で収集し、意見交換や情報収集をすることができた。 4) 助産施設の見学は出来なかったが、次年度は実施し、地域連携を図るようにする。
5. 地区部会活動を効果的に行うための内容を検討する。	1) 各地区部会の母子保健活動に関する情報を収集し整理する。 2) 全ての会員が該当地区部会に所属し、地区部会活動に参加する機会を得られるよう促す。	1) 理事会や ML 等で共有し、情報交換の機会を持つことができた。 2) 新会員へは入パンフレットを用いて周知し、地区部会にも必ず入会するよう促した。今年度は南北関東地区研修会が千葉県で開催されたため、地区毎に活動する機会が増え、地区部会活動への参加も促されたと思われる。

3. 次年度（平成 31 度）課題

- 1) 社会の変化やニーズを把握し、助産師会活動に反映する。
- 2) 会員増加に努めるとともに、マンパワーの把握と育成の提案を行う。
- 3) 事務所の管理・運営の安定化を図る。
- 4) 助産院の存続と発展に向けての活動を行う。
- 5) 地区部会の入会者を増やし、地区部会活動への参加を促す。
- 6) 専門部会間の連携を強化して組織活動を展開する。

平成30年度 細則検討委員会 活動報告

委員長 武田智子

委員 佐藤美保子 増田美恵子 理事

1. 委員会開催状況

理事会・委員会の席で審議事項として検討した。

2. 平成30年度 委員会目標に対する結果・評価

目標	内容	結果・評価
1. 定款および細則の見直しを適宜行う。	1) 総会において、定款を改正する。 2) 地区集会やホームページを通し、会員への周知を図る。 3) 定款と細則の見直しを行う。	1) 総会にて審議し、定款改正を行った。 2) ホームページ等にて周知を図った。 3) 次回の改正に向けて、定款および細則の内容を見直している。
2. 各専門部会・各委員会の規定作成および活動マニュアル作成の取り組みを支援する。	1) 各委員会の規定を適宜見直す。 2) 各部会や委員会の役割を明確にし、規定および活動マニュアル作成の取り組みを支援する。	1) 各委員会の規定については、現状で継続とする。 2) 各マニュアル作成は継続中である。

3. 次年度（平成31年度）課題

- 1) 定款・細則の見直しを行う。
- 2) 各部会・委員会の活動規定および活動マニュアルの作成を支援する。
- 3) 規定集を作成する。

6. 平成30年度 表彰及び福祉事業報告

表彰

母子保健家族計画事業功労者厚生労働大臣表彰

吉岡 由紀子 様

日本家族計画協会会長表彰

市川 香織 様

公益社団法人日本助産師会会長表彰

市川 智子 様

鈴木 佳代子 様

佐藤 尚子 様

永年活動感謝状

宍倉 とし 様

小林 みさ子 様

鶴岡 基子 様

増子 恵美子 様

会員福祉

古希（70歳）

佐藤 静子 様

物故会員

宮田 ちゑ子 様

7. 行政および関連団体等への会議参加状況

地区	会議名
千葉県助産師会全体	千葉県周産期医療審議会 千葉県母性衛生学会理事会 千葉県 STI 研究会世話人会 千葉県医療推進協議会
柏・野田・我孫子・流山・松戸	柏市思春期関係者会議 柏市保健衛生審議会母子保健専門分科会 柏市立教育研究所 乳幼児保健懇話会 松戸市防災会議 松戸市子ども子育て会議 松戸保健所 母子保健推進協議会 我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議
市川・浦安	浦安市社会福祉評議委員会 ファミリーサポートセンター基礎研修検討会議 浦安市合同防災訓練代表者会議 浦安市子ども家庭支援センター養育訪問支援会議 浦安市健康増進課症例検討会 市川保健所母子健康推進会議
船橋	船橋市地域保健推進協議会 船橋市要保護児童及びDV 対策地域協議会代表者会議 船橋市地域災害医療対策会議 船橋市地域保健推進協議会母子保健部会
習志野・八千代・鎌ヶ谷	習志野健康福祉センター母子保健推進評議会 習志野健康福祉センター産後ケア連絡調整会議 習志野市防災会議 八千代市思春期保健ネットワーク会議 八千代市妊娠・出産関連機関連絡会 八千代市周産期メンタルヘルスケア連絡会
印旛	印旛健康福祉センター運営会議 印旛地区母子健康推進協議会 成田市赤ちゃん訪問連絡会 災害協力運営会議（佐倉市・成田市） 産後ケア訪問事業協議会（佐倉市・四街道市・成田市）
香取・海匝・山武	山武市要保護児童対策協議会 香取市保健所母子保健推進協議会
千葉	千葉市地域保健医療協議会 千葉市健康づくり推進協議会 千葉市保健所運営協議会 健やか未来都市ちばプラン推進協議会 千葉地域医療構想調整会議
市原・君津・安房	いちほら健康まちづくりプラン 周産期保健に関する連絡調整会議 市原健康福祉センター母子保健推進協議会 君津地域産後ケア事業調整会議 君津健康福祉センター母子保健推進協議会 君津健康福祉センター産後ケア連絡調整会議・事業の推進 安房母子保健推進協議会

8. 平成 30 年度 千葉県助産師会の動向

月 日	内 容
4 月 4 日	千葉県立保健医療大学入学式 来賓参列
4 月 6 日	あびこ助産師専門学校入学式 来賓参列
4 月 8 日	第 1 回運営会議
4 月 10 日	スタジオアリス話し合い
4 月 15 日	第 1 回理事会
4 月 28 日	一般社団法人千葉県助産師会総会
4 月 28 日	第 2 回理事会
5 月 3 日	三役会（引継ぎ）
5 月 16 日	習志野市災害時支援協定締結
5 月 17 日	船橋市防災 MCA 無線配置
5 月 19 日	武田企画とホームページの話し合い
5 月 19 日	三役会
5 月 20 日	第 2 回運営会議
5 月 24 日	公益社団法人日本助産師会 代表者会議（金沢市）
5 月 25 日	公益社団法人日本助産師会 通常総会（金沢市）
5 月 25 日	三役会
5 月 26 日	日本助産師学会（金沢市）
5 月 28 日	成田市長への表敬訪問
6 月 1 日	南北関東地区研修会会場下見、試食会
6 月 1 日	法務局へ定款改正申請
6 月 3 日	第 3 回理事会
6 月 3 日	第 1 回南北関東地区研修会実行委員会・理事会合同会議
6 月 8 日	成田赤十字病院への表敬訪問
6 月 17 日	事務所の整備
6 月 19 日	公益社団法人千葉県看護協会総会 来賓参列
6 月 29 日	千葉県看護連盟通常総会
7 月 2 日	三役会
7 月 8 日	第 2 回南北関東地区研修会実行委員会・理事会合同会議
7 月 14 日	千葉県 STI 研究会
7 月 21 日	第 26 号 大潮の発送
8 月 3 日	三役会
8 月 5 日	第 3 回南北関東地区研修会実行委員会・理事会合同会議
8 月 5 日	第 3 回運営会議
8 月 19 日	第 4 回理事会
8 月 19 日	第 4 回南北関東地区研修会実行委員会・理事会合同会議
8 月 20 日	千葉県医療整備課および児童家庭課への要望書提出
8 月 20 日	関係機関への挨拶（千葉県医療整備課・千葉県児童家庭課・千葉県産科婦人科医会・千葉県看護協会・千葉県医師会・ちば予防衛生財団）

月 日	内 容
8月26日	九都県市防災訓練（千葉県勝浦市）
9月1日	千葉県助産師会創立90周年記念誌発行
9月7日	南北関東地区代表者会議（成田市）
9月7日	南北関東地区研修会・懇親会・創立90周年記念祝賀会（成田市）
9月8日	南北関東地区研修会（成田市）
9月29日	事業部話し合い
10月2日	南北関東地区研修会後挨拶（千葉県医療整備課・千葉県児童家庭課・千葉県医師会・千葉県小児科医会・成田市・成田赤十字病院）
10月10日	災害対策委員会による防災訓練
10月23日	三役会
10月28日	第4回運営会議
11月8日	公益社団法人日本助産師会 代表者会議および懇親会
11月11日	千葉県医療安全大会
11月18日	第5回理事会
11月23日	武田企画とホームページの話し合い
11月25日	中間監査
12月6日	臨時運営会議
12月14日	妊娠SOS事業委託申請プレゼンテーション（千葉県庁）
12月14日	第27号 大潮の発送
1月11日	三役会
1月13日	第5回運営会議
1月23日	関係機関への年始挨拶（千葉県医療整備課・千葉県児童家庭課・千葉県産科婦人科医会・千葉県看護協会・千葉県医師会）
1月20日	第6回理事会
1月20日	菜の花会
2月7日	千葉県医療地域連絡協議会 17団体
2月17日	第6回運営会議
2月24日	JCR ファーマー株式会社タイアップ研修会
2月28日	スタジオアリス話し合い
3月2日	千葉県産婦人科医学会市民講座
3月6日	あびこ助産師専門学校卒業式 来賓参列
3月6日	あびこ助産師専門学校謝恩会 来賓参列
3月7日	三役会
3月10日	第7回運営会議
3月13日	千葉県立保健医療大学卒業式 来賓参列
3月16日	第28号 大潮の発送
3月17日	第7回理事会
3月31日	平成30年度会計、事業監査報告

9. 千葉県助産師会事業部実績報告

事業名 地区	スタジオアリス		赤ちゃん本舗 マタニティー スクール	タクシー 運転者 講習会	我孫子市 両親学級 しあわせ ママパパ学級	産後ケア
	マタニティ セミナー	ベビー セミナー				
柏・野田・我孫子・ 流山・松戸	8	1	3	2	10	8
市川・浦安	0	0	0	1	0	0
船橋	0	0	0	0	0	0
習志野・八千代・ 鎌ヶ谷	4	0	5	0	0	1
印旛	4	0	0	0	0	0
香取・海匝・山武	3	0	0	0	0	0
千葉	7	0	0	0	0	0
市原・君津・安房	3	0	0	0	0	0
合計	29名	1名	8名	3名	10名	9名

10. 千葉県助産師会事業への協力

地区	事業	電話無料相談	南北関東地区研修会
柏・野田・我孫子・流山・松戸		9	14
市川・浦安		3	10
船橋		3	19
習志野・八千代・鎌ヶ谷		7	9
印旛		4	25
香取・海匝・山武		6	5
千葉		9	16
市原・君津・安房		10	9
合計		51名	107名

11. 平成 30 年度 メーリングリスト配信状況報告

年	月	内 容
平成 30 年	5	研修会案内（千葉県助産師会主催） 研修会案内（千葉県社会福祉協議会主催） お知らせ（厚労省：医療広告ガイドライン） お知らせ（厚労省：麻疹の予防接種の推奨） お知らせ（日本助産師会総会受付時間変更） 講習会案内（東京女子医大八千代医療センター主催 NCPR）
	6	事例検討会案内（子育て委員会企画第 1 回電話相談） 研修会案内（ちば思春期研究会主催） 事例検討会（子育て委員会企画）開始時間変更のお知らせ 学術集会案内（千葉県 STI 研究会） 学術集会再案内（千葉県 STI 研究会） CQ 募集（日本助産師会特別委員会） 講習会案内（助産所部会企画） 研修会再案内（教育委員会企画） お知らせ（本会：大阪地震に関する注意喚起） 南北関東地区研修会に関するお願い
	7	講習会案内（市川市思春期保健事業） （再）南北関東地区研修会に関するお願い お知らせ（厚労省：災害対策に関する通知） 南北関東地区研修会に関するお知らせ（申込延長） 南北関東地区研修会に関するお知らせ（出前講座） 講習会案内（産業廃棄物管理責任者講習会） 標語募集（看護協会） お知らせ（厚労省：児童虐待防止対策の強化に向けた緊急総合対策）
	8	お知らせ（千葉県合同防災訓練） 演題等募集（千葉県公衆衛生学会） お知らせ（アドバンス助産師更新について） 子育て・女性健康支援センター推進委員会連携集会案内（日本助産師会主催） 研修会案内（千葉県妊娠・出産包括支援推進事業） 研修会案内（日本助産師会&ジャパンワクチン共催） 南北関東地区研修会に関するお知らせ（参加証送付）
	9	研修会案内（日本助産師会主催 安全管理合同研修） 研修会案内（千葉県助産師会主催「性の健康教育」）

年	月	内 容
		研修会案内（第8回母乳育児支援学習会）
平成 30 年	10	お知らせ（千葉県助産師会創立 90 周年記念誌発行および販売） お願い（日本助産師会災害対策基金） 研修会案内（市川市健康福祉センター母子保健従事者研修会） 研修会案内（千葉市母子保健研修事業） 研修会案内（千葉県健康福祉部児童家庭課主催 周産期メンタルヘルス研修会） 事例検討会案内（子育て委員会企画第2回電話相談）
	11	お知らせ（厚労省：乳幼児突然死症候群(SIDS)対策強化月間の実施） お知らせ（千葉県看護協会：医療安全大会） 研修会案内（周産期メンタルヘルス） お知らせ（厚労省：妊娠中の健康管理に関する留意点及び妊婦加算について） お知らせ（厚労省：産前産後期間に係る国民年金保険料の免除について）
	12	お知らせ（健康教育講師の集い） 研修会案内（千葉県健康福祉部児童家庭課主催：不妊相談従事者研修会） 平成 31 年度電話無料相談協力員募集 お知らせ（平成 30 年度「菜の花会」） お知らせ（再「健康教育講師の集い」詳細） 研修会案内（教育委員会主催 CloCMiP®レベルⅢアドバンス助産師認証活用研修）
平成 31 年	1	お知らせ（厚労省：妊婦加算および妊娠中の健康管理について） 研修会案内（新生児・乳幼児へのケアのスキル研修） お知らせ（定員に達したため研修会募集中止のお知らせ） お知らせ（千葉県公衆衛生学会） 研修会案内（千葉県母性衛生学会セミナー） 研修会案内（千葉県健康福祉部児童家庭課主催：児童虐待防止に関する母子保健担当者研修） 市民公開講座案内（千葉県産婦人科医学会主催「婦人科がん」）
	2	演題登録のお願い(日本助産師学会) パブリックコメント募集（助産業務ガイドライン改訂案） お知らせ（厚労省：臍帯血バンク法改正周知事務連絡） 講習会案内（新生児蘇生法 A・B コース） お知らせ（千葉県：2019 年度「看護の日」及び「看護週間」の実施） お知らせ（千葉県：「あと 500 日！オール千葉で応援しよう！」フォーラム開催） お知らせ（厚労省：「訪問診療等に使用する車両に係る駐車許可」について）

*平成 31 年 2 月 11 日 現在、会員 365 名中 メーリングリスト登録者は 187 名

*その他、役員用メーリングリスト、理事用メーリングリストにて役員、理事間での情報提供、周知に活用し

ています。

12. 資料・主な統計

1. 研修会実績報告
2. 助産師の電話無料相談統計（ミッドワイフ千葉）
3. 母乳育児支援に対する安全評価
4. 健康教育活動報告
5. 生と性の健康教育活動実績
6. 助産所分娩数（自宅分娩を含む）
7. 災害対策活動報告
8. 南北関東地区研修会開催報告
9. 創立 90 周年記念誌作成報告
10. 要望書

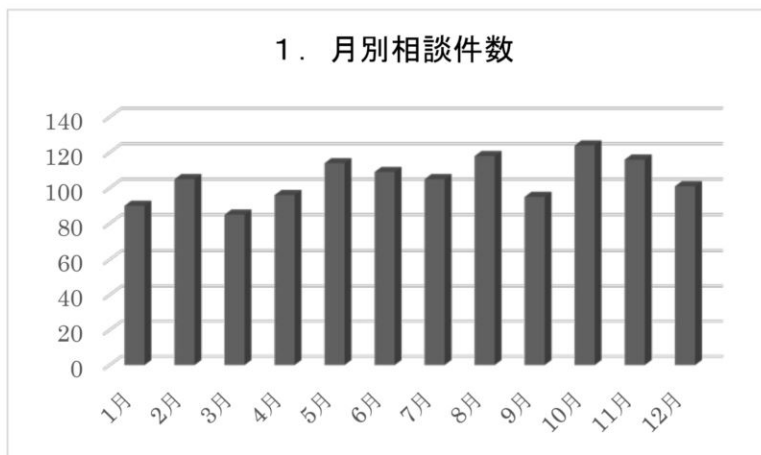
1. 平成 30 年度 研修会実績報告

研修会名 (定員)	開催日時 場所	研修 時間	研修内容	講師	ポイント		受講者数
					一 般	安 全	
J-MELS ベーシック コース (36名)	7月1日 (日) 東京女子医 大八千代医 療センター	4時間	母体救命救急講習	計良和範先生他 (船橋中央病院)		4	会員 16名 非会員 20名 合計 36名
		4時間				4	
産前産後育 児の支援 (40名)	7月29日 (日) 千葉市生涯 学習センタ ー	3時間	産前産後育児支援 としての母乳栄養 (実技演習あり)	伊東厚子先生 (日本母子ケア研究会 小山自然育児相談所)	2		会員 38名 非会員 4名 合計 42名
		3時間			2		
性の健康教 育 (40名)	10月14日 (日) 千葉市民会 館	3時間	STIの最新動向 CloCMiP®ラダー Ⅲ指定研修科目 3- 3)	堀成美先生 (感染症対策 コンサルタント)	2		会員 18名 非会員 2名 合計 20名
		3時間	STI予防と学校教 育 CloCMiP®ラダー Ⅲ指定研修科目 3- 3)	渡會睦子先生 (東京保健医療大学)	2		
胎児心拍 モニターの 読み方 (30名)	1月27日 (日) 千葉市民会 館	3時間	CTGの判読と事 例 CloCMiP®ラダー Ⅲ必修研修	水谷佳敬先生 (さんむ医療センタ ー)		2	会員 8名 非会員 1名 合計 9名
メンタルヘ ルス・ファ ーストエイ ド (30名)		3時間	うつ病が疑われる 妊産褥婦への支援 とロールプレイ CloCMiP®ラダー Ⅲ指定研修科目 3- 4)	宮澤純子先生 (城西国際大学)	2		会員 8名 非会員 2名 合計 10名
地区報告会	4月27日 (日) 千葉市文化 センター	1時間	各地区からの実践 報告 意見交換	各地区発表者			会員 名

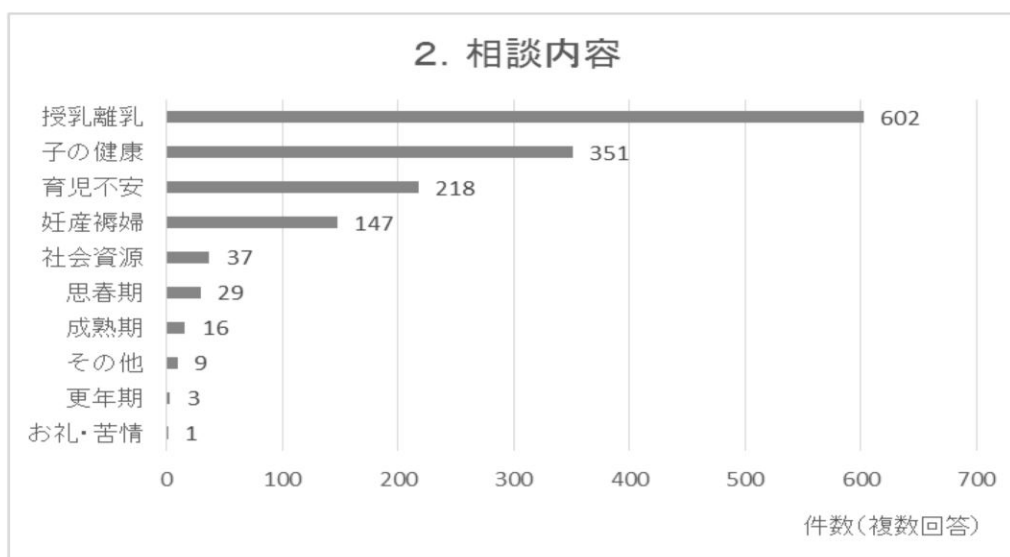
2. 平成30年 助産師の電話無料相談 統計 平成30年1～12月

1. 月別相談件数

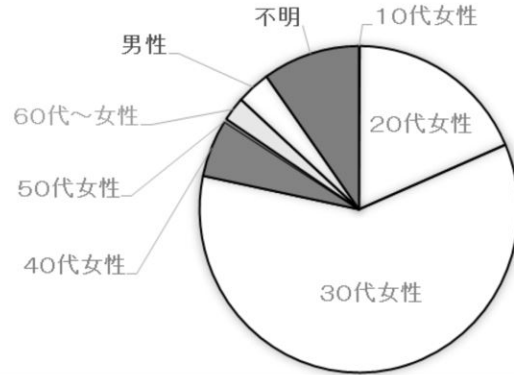
月	件数
1月	90
2月	105
3月	85
4月	96
5月	114
6月	109
7月	105
8月	118
9月	95
10月	124
11月	116
12月	101
合計	1258



2. 相談内容

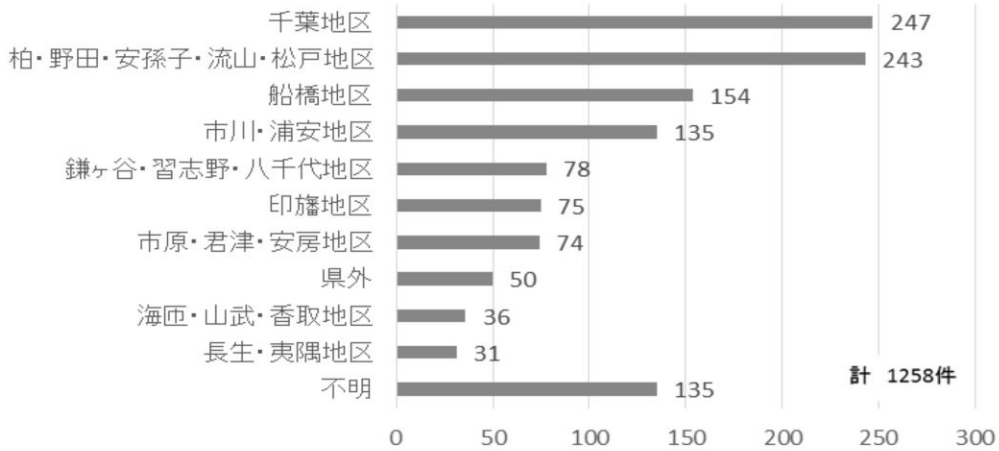


3. 相談者背景 年齢



計 1258件

4. 相談者の背景 居住地

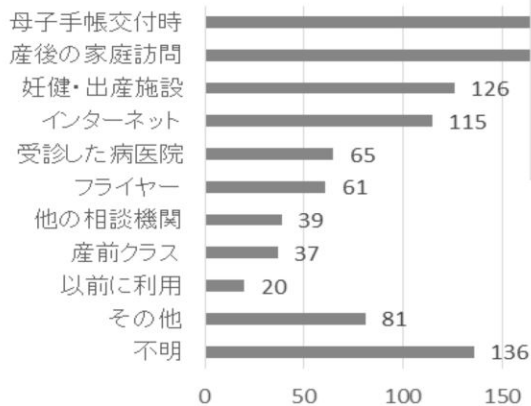


計 1258件

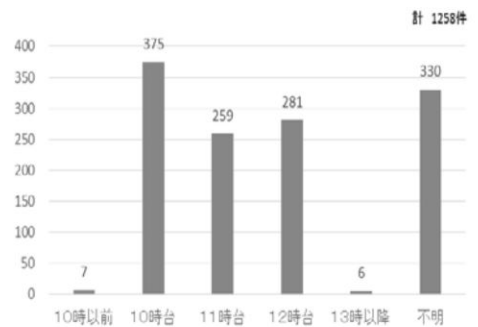
5. 電話1件当たりの相談対応時間



7. 電話相談を知った経路



6. 相談時間帯



計 1258件

3. 母乳育児支援に対する安全評価アンケート集計結果

千葉県						
■保健指導部会会員全員に配布した。(ア) □母乳育児支援活動をしている会員のみ配布した。(イ) ※いずれかにレ点もしくは、■を記入						
① 発送対象者数(131名) ②回収枚数(74名) ③回収率(56%) ④「母乳育児支援をしていない」と返答があった(5)名 ⑤ 母乳育児支援評価対象者数(69名) ⑥保健指導型有施設助産所数(27か所)						
※ ⑤母乳育児支援評価対象者数=回収数-「母乳育児支援をしていない」会員数です。 ※「母乳育児支援をしていない」と回答した者は無回答に含めない						
項目	評価基準	質問 番号	集計			備考
			できてい る(1)	できていな い(2)	無回答 (3)	
説明と同意	支援する内容に対して、事前に説明が行われ、同意を得ている	1	68	1	0	
	提供される支援の料金が明示されている	2	69	0	0	
対象へのプライバシーの配慮	対象の情報について適切に扱われている	3	69	0	0	
	対象のプライバシーが守られる環境が整備されている	4	69	0	0	
記録	母乳育児支援に関連した記録が行われ、保管されている	5	69	0	0	
	家庭訪問時の対象のカルテが適切に扱われている	6	68	0	1	
安全確保のための体制	対象児の成長発達(特に体重増加)が正しく評価できている	7	69	0	0	
	安全のための講習会を年1回以上受けている	8	49	20	0	
他職種との連携	母乳育児支援における他職種との連携が取れている ①医療職との連携 ②保健福祉関係職との連携	9	69	0	0	
助産所の運営	安全管理指針を作成している	10	32	17	20	
	感染防止のための対策が整備されている	11	49	0	20	
	使用物品が正しく使われている	12	49	0	20	
事故防止	器材が安全に管理され、使用されている	13	59	10	0	
	ヒヤリハット事例の報告をしている	14	69	0	0	
事故への対応	事故発生時は速やかに対応し、報告している	15	69	0	0	
	賠償責任保険に加入している	16	63	6	0	

4. 平成30年度 健康教育活動報告

平成30年1月～12月

1. 実施回数		1地区	2地区	3地区	4地区	5地区	6地区	7地区	9地区	合計
●対象者										
	就学前	0	0	0	2	0	0	0	0	2
	小学校	69	25	2	26	18	20	20	5	185
	中学校	42	15	11	15	35	10	39	20	187
	高等学校	3	3	0	3	3	1	5	7	25
特別支援 学校	小学部	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	中学部	0	5	0	0	0	0	1	0	6
	高等部	0	2	0	0	0	0	0	0	2
	PTA・保護者	9	5	0	16	2	8	9	1	50
	大学・専門学校	0	6	0	0	0	0	16	0	22
	社会人	0	3	0	1	4	0	3	1	17
その他	公民館・女性センター等	0	0	0	5	0	0	4	0	9
	保健師・教員(薬剤師・保育士)	2	5	0	1	0	0	3	0	11
	未就園母子	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	125	70	13	69	62	39	100	34	512

2. 依頼者		1地区	2地区	3地区	4地区	5地区	6地区	7地区	9地区	合計
●依頼者										
	学校・幼稚園・保育園	92	47	1	39	43	28	52	8	310
	PTA・保護者	17	2	0	21	0	7	8	0	55
	市町村等行政団体 (保健所・保健センター等)	16	5	11	6	7	4	12	22	83
その他	教育委員会	0	2	0	0	12	0	7	0	21
	県の男女共同参画事業	0	0	0	0	0	0	7	0	7
	母子推進委員会	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他主催	0	12	1	2	0	0	14	0	29
	子育て支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	薬剤師会・民間保育振興会	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	合計	125	68	13	69	62	39	100	30	506

延べ人数		1地区	2地区	3地区	4地区	5地区	6地区	7地区	9地区	合計
●対象者										
	就学前	0	0	0	30	0		3	0	33
小学校	1年生	0	0	0	0	10	0	6	0	16
	2年生	352	80	0	0	10	0	6	0	448
	3年生	220	0	0	66	10	436	35	0	767
	4年生	1211	148	1	273	200	20	430	401	2684
	5年生	1359	1808	57	1788	120	211	215	0	5558
	6年生	2937	177	1	163	400	239	507	0	4424
中学校	1年生	1846	178	22	674	0	0	0	0	2720
	2年生	338	1356	336	737	0	635	2599	477	6478
	3年生	5552	551	1532	940	4262	84	2175	1020	16116
高等学校	1年生	643	106	0	7	285	85	680	546	2352
	2年生	768	167	0	630	285	0	180	0	2030
	3年生	400	0	0	0	1000	0	180	135	1715
特別支援 学校	小学部	0	8	0	0	0	0	0	0	8
	中学部	0	38	0	0	0	0	0	0	38
	高等部	0	26	0	0	0	0	0	0	26
	PTA・保護者	2046	133	61	847	224	178	654	108	4251
	大学生・専門学校生	0	339	0	0	0	0	1070	159	1568
	社会人	0	80	0	11	80	0	777	194	1142
その他	公民館・女性センター	0	0	0	56	0	0	60	0	116
	保健師・教員(薬剤師・保育士)	879	533	14	120	0	0	137	0	1683
	未就園母子	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	18551	5728	2024	6342	6886	1888	9714	3040	54173

助産師会作成のパワーポイントを使用した回数	助産師が行う思春期視覚教材	0
助産師会作成ビデオ(DVD)を使用した回数	ホンネで話そう性と性(中学生編)	0
	ホンネで話そう性と性(高校生編)	0
	命の誕生	0

5. 平成30年度 生と性の健康教育活動実績

1. 登録講師

千葉県助産師会登録講師は49名で、前年度より2名増えた。【表1】

2. 生と性の健康教育件数

1) 講演回数は、総数512回

そのうち中学校が187回、小学校が185回、次いで保護者が50回あった。

平成29年は、482回、30年は512回と増加している。【表2、図1、図2】

2) 講演参加者総数54,173人であった。

3) 社会人の内訳は、公民館・女性センター・保健師・教員(薬剤師・保育士)未就園母子が含まれる。

4) 千葉県助産師会のホームページの講師依頼の申し込みフォームの件数は35件であった。(依頼総数512件のうち約7%が申し込みフォームからの依頼であった。)

【表1】 地区別登録講師数

地区	講師数(人)
1地区	5
2地区	6
3地区	4
4地区	4
5地区	12
6地区	4
7地区	6
9地区	8
その他	0
合計	49

【表2】 対象者別講演回数および参加者数

対象者	回数		参加者数	
	2017年	2018年	2017年	2018年
就学前	0	2	1	33
小学校	167	185	12676	13897
中学校	169	187	22126	25314
高等学校	34	25	8215	6097
特別支援学校	12	9	241	72
大学生・専門学校生	12	22	676	1568
PTA・保護者	35	50	5199	4251
社会人	53	32	3029	2941
合計	482	512	52163	54173

図1. 平成29.30年の活動回数の比較

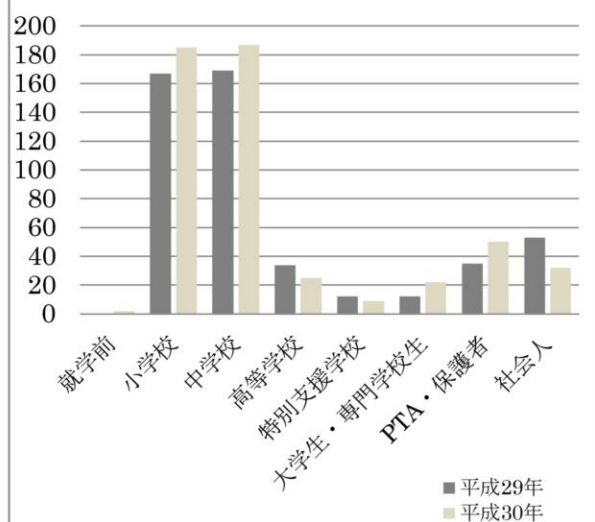
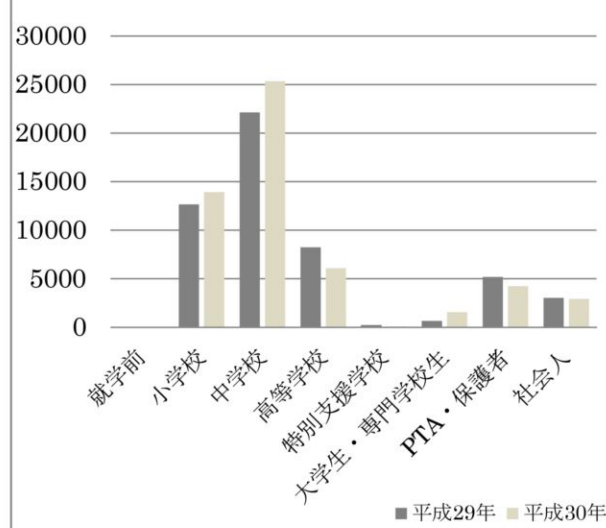


図2. 平成29.30年の参加者数の比較



6. 平成30年 県内助産所分娩数 統計（1月～12月）

（自宅分娩を含む）

分娩取扱い	有床（10か所）	出張（5か所）	月別小計
1月	11	1	12
2月	10	0	10
3月	12	0	12
4月	15	2	17
5月	14	1	15
6月	9	0	9
7月	10	0	10
8月	6	3	9
9月	8	0	8
10月	9	1	10
11月	20	1	21
12月	9	0	9
合計	133	9	142

*参考 平成29年度 201件・・・有床：178件、出張：23件

7. 平成30年度 千葉県助産師会 災害対策活動

〈防災訓練関連〉

4/27	九都県市合同 防災訓練 第2回全体会議	島森、 9地区会員1名	8/26	九都県市合同 防災訓練 本番	伊藤、井上、 島森、進藤、 武田 9地区会員4名
5/10	土砂災害避難訓練 第2回調整会議	進藤	9/2	市原市総合 防災訓練	進藤 9地区会員3名
6/1	土砂災害避難訓練 前日準備	島森、進藤	9/2	習志野市防災訓練	金子 4地区会員2名
6/2	土砂災害避難訓練 本番	島森、伊藤、 進藤 9地区会員	10/21	佐倉市市民 防災訓練	島森、西宮 5地区会員3名
7/24	九都県市合同 防災訓練 避難所訓練会議	伊藤、島森	11/28	九都県市合同 防災訓練（31年度） 第1回全体会議	伊藤、島森
7/30	九都県市合同 防災訓練 第3回全体会議	武田、島森	2/12	九都県市合同 防災訓練（31年度） 第2回全体会議	伊藤、島森

〈災害時支援協定〉

5/16	習志野市 災害時支援協定締結	武田、金子、足立（前会長） 4地区会員
------	-------------------	------------------------

8. 日本助産師会南北関東地区研修会開催報告

- 実行委員長 : 熊谷由里
実行委員 : 加藤睦、元沢一二美、今ひろみ、森昌代、小野裕子、新森永遠路、安達桃子
スポンサー : 足立千賀子、川口真理子、吉岡由紀子
テーマ : ～助産師がつむぐ～こころとことばときずな
開催日程 : 平成30年9月7日(金)～8日(土)
開催場所 : 成田東武ホテルエアポート
参加人数 : 参加者 267名、2日間延べ 467名
懇親会参加者 131名
協力会員 : 2日間延べ 157名



〔イベントを終えて〕

南北関東地区研修会は、平成30年9月7日から2日間にわたり成田市にて開催され、おかげさまで成功裏に終わることができました。研修会のテーマは、エビデンスだけで表すことのできない「こころ」を、「ことば」でつむぎ、「きずな」をつないでいく仕事として、今一度助産師の姿勢を振り返りつつ、助産師職能としてよりいっそう奥行きのあるケアにつなげていければという思いをのせて、「～助産師がつむぐ～こころとことばときずな」として企画、運営してまいりました。

研修会当日には延べ467名のご参加を頂きました。アンケートでは、テーマ、講義とも90%以上が満足という結果を得たことから、期待に沿えたテーマ、内容とすることができたと思います。懇親会においては、生演奏や踊りを披露し、県外の参加者から「元気とおもてなしの気持ちをいただきました」と好評を得ました。

今回の研修が、武田会長はじめ千葉県助産師会会員の団結力と心根によって成し遂げられたことに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



9. 創立 90 周年記念誌作成報告

編集委員 清水清美・斉藤葉子・足立千賀子・川口真理子・佐々木美喜

作成部数 450 部（116p オールカラー）

製作費 1,061,208 円

一部 1500 円で販売

<作成を終えて>

本誌作成に備えて、「諸先輩たちの貴重な体験を残したい!!」そんな気持ちから、川口氏を講師に「聞き書き」から勉強しました。そして、第 1 章では「先輩助産師からの伝承」として特集を組みました。佐久間早苗先生・鎌田菊枝先生・斉藤葉子先生の足跡を中心にインタビューによる聞き書きを行いました。また、「先輩緒姉から後輩へのエール」「先輩と私」として寄稿いただきました。

この作業を通して、私たちは沢山の諸姉の助産師としてのバトンを引き継いでいるのだなと感じました。次は私たちが後輩助産師に渡す番です。私たちは何を引き継ぐのか、各々の活動にかかっています。次世代に助産師のバトンをしっかり渡せるように、次の 10 年をしっかりとあゆみたいと思います。

本誌はオールカラーとし、「今日が一番若い日!」を合言葉に、沢山の写真を撮らせていただき、掲載させていただきました。掲載に当たり原稿を執筆くださった会員の皆様、ご家族の皆様にこの場で感謝したいと思います。ありがとうございました。

本誌は、南北関東地区研修会のテーマでもある「この 10 年のあゆみ～助産師がつむぐ～こころとことばときずな」とさせていただきます。



平成30年8月20日
千 助 第 号

千葉県知事
森田 健作 様

一般社団法人 千葉県助産師会
会 長 武田 智子

要 望 書

一般社団法人千葉県助産師会は、助産師職の専門団体として、次世代を担う子ども達を安心して産み育てられる社会をめざし、妊娠・出産・育児に対する支援及び女性の健康支援に関する活動を行っております。母子が安心して暮らせる環境の整備とともに、妊娠・出産期から育児期まで継続的なケアを提供できる助産師を活用し、より充実した母子保健サービスが提供できるよう以下の4項目を要望します。

要 望 事 項

1. 助産所が地域において最善の助産ケアを母子に提供できるよう周産期医療連携体制を推進されたい。
 - 1) 嘱託医師、嘱託医療機関、連携医療機関との協力、連携が円滑に行われるように通知等で定められたい。
 - 2) 周産期医療体制整備指針における周産期医療協議会の構成員として、千葉県助産師会の代表者を明確に位置づけられたい。
 - 3) 周産期医療ネットワークに助産所が包含されるように徹底されたい。
2. 子育て世代包括支援センター（母子健康包括支援センター）設置の全国展開が速やかに実施されるために、助産師の活用が図られるための予算措置を拡充いただきたい。
 - 1) 子育て世代包括支援センターに母子支援の専門家である助産師の配置を促進されたい。
 - 2) 子育て・女性健康支援センターによる電話無料相談に対して財政上の支援をされたい。

3. 産後うつや子ども虐待予防につながる産後ケアを全ての母親が受けることができるよう、産後ケア事業に関し、公的な支援制度の充実を図られたい。

4. 質の高い助産師の養成に向けて、診療所を含めた実習医療施設の教育環境を整備されたい。

1) 診療所等において実習受け入れが促進されるように実習施設の整備及び指導者の確保のための予算措置をされたい。

2) 実習を受け入れる施設に対して実習指導者講習会参加のための財政支援をされたい。

要 望 内 容

1. 助産所が地域において最善の助産ケアを母子に提供できるよう周産期医療連携体制を推進されたい。

医療法改正（平成 29 年 10 月 1 日施行）により、出張のみによって分娩を取り扱う助産師についても、母児の安全確保の観点から、連携する医療機関を定めることが義務づけられた。公益社団法人日本助産師会はこれを受けて、平成 29 年度「助産所における連携医療機関確保支援事業」を実施された。しかし、平成 29 年度末において、連携医療機関の確保が困難な地域が存在するとしている。

女性が安全、安心して出産するためには、周産期の医療連携は欠かせない。日ごろから、地域の周産期ネットワークに助産師が参画することが、目の見える連携には必要であり、日常および緊急時の連携体制を円滑にする。

したがって、嘱託医師、嘱託医療機関、連携医療機関との協力、連携が円滑にいくように通知等で定めること、周産期医療体制整備指針における周産期医療協議会の構成員として、千葉県助産師会の代表者を明確に位置づけること、周産期医療ネットワークに助産所が包含されるように徹底されたい。

2. 子育て世代包括支援センター（母子健康包括支援センター）設置の全国展開が速やかに実施されるために、助産師の活用が図られるための予算措置を拡充いただきたい。

児童虐待や子育て不安、産後うつなど子育てを取り巻く諸問題が増加している折、子育て世代包括支援センター（母子健康包括支援センター）設置の全国展開は喫緊の課題である。子育て世代包括支援センターは、妊娠から子育て期までの切れ目のない支援の提供を目指している。切れ目のない支援のためには、妊娠から子育て期のことを熟知し、先を見通した支援を提供できることが必須である。そのため、子育て世代包括支援センターに母子支援の専門家である助産師の配置を促進されたい。

また、既に、千葉県助産師会では子育て・女性健康支援センターの活動として、助産師による子育て支援等を実施しており、無料の電話相談は年間 1,200 件以上となっている。これらの既存の資源の活用を図られるよう財政的支援を講じられたい。

3. 産後うつや子ども虐待予防につながる産後ケアを全ての母親が受けることができるよう、産後ケア事業に関し、公的な支援制度の充実を図られたい。

国では、平成 26 年度から開始された妊娠・出産包括支援事業において予算措置がなされているが、予算に対する執行額の割合（％）は、平成 26 年度は 13％、平成 27 年度は 13％、平成 28 年度は 22％となっており、有効に活用されていない。

平成 29 年においては、産後ケア事業は、全国では約 22％の 384 市町村、千葉県では約 24％の 13 市町村での実施となっている。産後うつ及び子ども虐待の予防は、喫緊の課題であり、全国各地で産後ケアがあまねく受けられることが必要である。そのためには、妊娠・出産包括支援事業の補助金が効果的に活用されるべきであり、事業の見直しや予算の拡充を図られたい。

4. 質の高い助産師の養成に向けて、診療所を含めた実習医療施設の教育環境整備に対する予算措置の拡充を図られたい。

近年、分娩件数の減少、産科施設の減少、ハイリスク妊産婦の増加等により、病院では助産実習において学生が受け持つことのできる正常分娩の対象者は減少している。一方、わが国の約半数の分娩を扱っている診療所では、正常分娩数が多いにもかかわらず、臨床指導者がいない等の理由により、助産実習の受け入れが困難な状況が続いている。これらの問題を解決するためには、臨床指導者の育成や助産師学生の実習を受け入れる医療機関に対する支援等、正常分娩を取り扱う産科施設が助産師学生の実習を受け入れやすくするための条件整備が必要である。そのため、質の高い助産師の養成に向けて、診療所等において実習受け入れが促進されるよう実習医療施設の整備及び実習指導者の確保のための予算措置を拡充されるとともに、実習を受け入れる施設に対しては、実習指導者講習会参加のための財政支援を講じられ、診療所を含めた実習医療施設の教育環境整備を充実されたい。

